

令和5年度実施

令和4年度  
教育に関する事務の管理及び執行状況  
点検・評価報告書

令和5年9月  
米子市教育委員会

## 目 次

1	点検・評価の目的	P. 1
2	教育委員会の構成及び会議の開催状況	P. 1
3	教育委員会の会議での審議状況	P. 2
4	教育委員会の会議以外の活動状況	P. 4
5	教育委員会事務局の組織	P. 5
6	教育委員会事務局の主な担当業務	P. 6
7	点検・評価と米子市教育振興基本計画との関係 について	P. 7
8	点検・評価の方法について	P. 7
9	点検・評価結果の概要	P. 8
10	点検・評価票	P. 12
11	学識経験者の知見	P. 78
付録	米子市教育振興基本計画体系図	P. 80

## 1 点検・評価の目的

米子市教育委員会では、平成20年度から毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。（「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づく点検・評価及び公表）

その目的は、自ら事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、課題や問題点を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていこうとするものです。

## 2 教育委員会の構成及び会議の開催状況

### (1) 教育委員会の構成

米子市教育委員会委員名簿（R4.4.1～R5.3.31）

職名	氏名	任期	備考
委員	白井靖二	R3.5.20～R7.5.19	教育長職務代理者
委員	上森英史	H17.3.31～R6.5.19	
委員	荒川陽子	H26.5.20～R8.5.19	
委員	三瓶文乃	R1.5.20～R5.5.19	
教育長	浦林実	H30.4.1～R5.5.19	

### (2) 会議の開催状況

教育委員会の会議については、月1回の定例会と必要に応じて開催する臨時会を開催しています。

令和4年度開催実績 ・定例会 12回 ・臨時会 1回

### 3 教育委員会の会議での審議状況

教育委員会の会議で令和4年度に審議した内容及び件数は次のとおりです。

分類番号	審 議 内 容	件 数
【1】	教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針	10
【2】	教育委員会規則・規程の制定及び改廃	2
【3】	教育予算その他議会の議決を経るべき事件	7
【4】	職員の人事に関する事	10
【5】	教育委員会の附属機関の委員の委嘱及び任命	16
【6】	教科書の採択に関する事	1
【7】	その他	4
合 計		50

(参考) 令和4年度審議案件一覧

※議案番号は暦年で付しています。【 】内は審議内容の分類番号です。

○令和4年第6回米子市教育委員会定例会（令和4年4月22日）

議案第31号 米子市文化財保存活用地域計画検討協議会委員の委嘱について【5】

議案第32号 米子市図書館協議会委員の任命について【5】

議案第33号 米子市社会教育委員の委嘱について【5】

議案第34号 米子市学校給食運営委員会委員の委嘱について【5】

議案第35号 米子市教育支援委員会委員の委嘱及び任命について【5】

議案第36号 米子市教育委員会事務局職員の人事異動について【4】

○令和4年第7回米子市教育委員会定例会（令和4年5月26日）

議案第38号 史跡米子城跡整備検討委員会委員の委嘱について【5】

議案第39号 米子市美術館協議会委員の任命について【5】

議案第40号 米子市図書館協議会委員の任命について【5】

○令和4年第8回米子市教育委員会定例会議事日程（令和4年6月30日）

議案第42号 米子市立尚徳中学校学校運営協議会委員の任命について【5】

議案第43号 工事請負契約の締結について【3】

議案第44号 工事請負契約の締結について【3】

議案第45号 令和4年度一般会計補正予算（補正第3回）について【3】

（教育委員会の所管に属する部分）

○令和4年第9回米子市教育委員会定例会議事日程（令和4年7月29日）

議案第46号 「米子市学校教育ビジョン」の改訂について【1】

○令和4年第10回米子市教育委員会定例会議事日程（令和4年8月22日）

議案第49号 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について【1】

議案第50号 米子市教育委員会事務局職員の人事異動について【4】

○令和4年第11回米子市教育委員会定例会議事日程（令和4年9月28日）

議案第51号 米子市指定有形文化財の指定について【7】

- 議案第52号 米子市指定史跡名勝天然記念物の指定について【7】
- 令和4年第12回米子市教育委員会定例会議事日程（令和4年10月24日）  
審議案件なし
- 令和4年第13回米子市教育委員会定例会議事日程（令和4年11月21日）  
議案第53号 令和4年度一般会計補正予算（補正第6回）について【3】  
（教育委員会の所管に属する部分）
- 令和4年第14回米子市教育委員会定例会議事日程（令和4年12月21日）  
議案第54号 令和4年度末米子市立小・中学校教職員人事異動方針について【4】  
議案第55号 令和4年度米子市立小・中学校学校運営協議会委員の任命について【5】  
議案第56号 米子市教育委員会事務局職員の人事異動について【4】
- 令和5年第1回米子市教育委員会定例会議事日程（令和5年1月24日）  
議案第1号 米子市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について【2】
- 令和5年第2回米子市教育委員会定例会議事日程（令和5年2月16日）  
議案第2号 令和5年度人権教育の施策について【1】  
議案第3号 令和5年度教育振興の施策について（こども政策課）【1】  
議案第4号 令和5年度教育振興の施策について（こども施設課）【1】  
議案第5号 令和5年度教育振興の施策について（こども支援課）【1】  
議案第6号 令和5年度学校教育の施策について【1】  
議案第7号 令和5年度生涯学習の施策について【1】  
議案第8号 令和5年度学校給食の施策について【1】  
議案第9号 令和5年度文化財保護の施策について【1】  
議案第10号 米子市学校給食運営委員会の公募の委員の選考決定について【7】  
議案第11号 令和4年度一般会計補正予算（補正第9回）について【3】  
（教育委員会の所管に属する部分）  
議案第12号 令和5年度一般会計予算について（教育委員会の所管に属する部分）【3】
- 令和5年第3回米子市教育委員会臨時会議事日程（令和5年3月9日）  
議案第13号 市立学校の県費負担教職員の異動の内申について【4】
- 令和5年第4回米子市教育委員会定例会議事日程（令和5年3月16日）  
議案第14号 米子市スポーツ推進委員の委嘱について【5】  
議案第15号 米子市指定有形文化財の指定について【7】  
議案第16号 米子市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について【2】  
議案第17号 鳥取県西部地区教科用図書採択協議会の設置について【6】  
議案第18号 令和5年度一般会計補正予算（補正第1回）について【3】  
（教育委員会の所管に属する部分）  
議案第19号 米子市文化財保護審議会委員の委嘱について【5】  
議案第20号 史跡米子城跡整備検討委員会委員の委嘱について【5】

○定例会以外

令和4年

議案第37号 令和4年度米子市立小・中学校学校運営協議会委員の任命について【5】

議案第41号 米子市教育委員会事務局職員の人事異動について【4】

議案第47号 米子市教育委員会事務局職員の人事異動について【4】

議案第48号 米子市教育委員会事務局職員の人事異動について【4】

令和5年

議案第21号 米子市教育委員会事務局職員の人事異動について【4】

議案第22号 令和5年度米子市立小・中学校学校運営協議会委員の任命について【5】

議案第23号 米子市学校給食運営委員会委員の委嘱について【5】

議案第24号 米子市教育委員会事務局職員の人事異動について【4】

## 4 教育委員会の会議以外の活動状況

教育長及び教育委員が教育委員会の会議以外に参加したものは、次のとおりです。

### (1) 教育委員会委員研修会

- ・市町村教育委員会研究協議会（10月開催、9月・1月オンライン実施）
- ・鳥取県市町村教育委員会研究協議会（4月・7月開催）

### (2) 総合教育会議（8月、2月）

### (3) 学校訪問

- ・学校計画訪問 17校
- ・入学式、卒業式

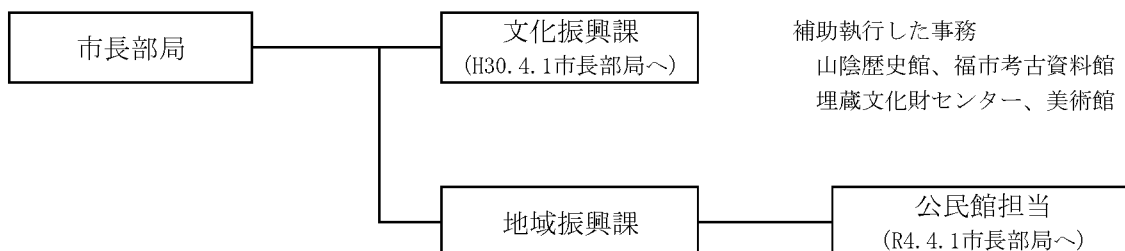
## 5 教育委員会事務局の組織

教育委員会事務局の組織は、次のとおりです。

令和4年4月1日現在



(参考)



## 6 教育委員会事務局の主な担当業務

主な担当業務は次のとおりです。

令和4年4月1日現在

所属名担当名	主な業務内容
こども政策課 学校政策担当	教育委員会の運営、米子市日吉津村中学校組合の運営、教育振興基本計画、教育に関する事務及び執行状況の点検評価に関する事、学校の設置・廃止、通学区域の設定・変更
義務教育学校準備担当	義務教育学校の設置の準備に関する事
こども施設課 学校施設担当	学校教育施設の整備・修繕、施設の維持管理業務、学校施設の大規模改修、学校ICT環境の整備、学校運営予算の管理、学校図書館の運営
こども支援課 就学支援担当	通学路の安全確保に関する事、就学援助、特別支援教育就学奨励
学校教育課 学務担当	就学許可、就学事務、学校保健
指導担当	教育課程・学習指導、教職員の研修実施、教科書採択関連、生徒指導、進路指導、学校計画訪問
人権教育担当	学校における人権教育の推進、外国人児童生徒等への教育的支援、米子市人権教育推進プランに関する事
生涯学習課 生涯学習担当	社会教育委員に関する事、二十歳を祝う会の開催、人生大学・よなごアカデミーの開催、図書館の管理・運営
学校給食課 給食担当	学校給食施設の管理、調理業務受託者との調整、衛生管理、学校給食運営委員会、学校給食の献立作成、食物アレルギー対応、地産地消に関する事

### ※市長部局

文化振興課 補助執行した事務	文化財保護、埋蔵文化財発掘調査、山陰歴史館、史跡等の整備、埋蔵文化財センター、福市考古資料館に関する事、美術館の管理及び運営に関する事
地域振興課 公民館担当	公民館に関する事



## 7 点検・評価と米子市教育振興基本計画との関係について

令和4年2月に新たに策定した米子市教育振興基本計画は、計画期間を令和4年度から令和8年度までとしています。

この計画では、本市教育が中長期的に目指すべき姿を「基本理念」として示すとともに、基本理念を支える4つの「基本目標」を掲げています。

具体的な施策を実施するに当たり、基本目標の実現に向けた「基本施策」について、教育委員会がその推進状況や課題等を踏まえて、点検・評価しました。

なお、公民館に関する事務については、令和4年度から市長部局へ移管し、教育委員会の所掌事務ではなくなったため、教育委員会では点検・評価を行わないこととしています。

## 8 点検・評価の方法について

### (1) 点検・評価の流れ

各担当課において、基本施策に該当する「主な取組（個別事業）」について点検・評価を行い、その結果を総合して基本施策の評価を行いました。

次に、教育委員会事務局において、各担当課の評価を参考にして、基本施策の評価を行いました。

最後に、教育委員会が教育委員会事務局の評価を参考にして、基本施策の評価を行いました。

### (2) 点検・評価の区分

#### ①「主な取組（個別事業）」（様式2）

主な取組（個別事業）の点検・評価については、取組状況及び数値目標に対する実績を評価基準に基づき◎、○、△、×の4段階で評価しました。

評価区分は次のとおりとし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により取組状況に影響があった場合は、「新型コロナウイルス感染症の影響あり」としました。

評価区分		内 容
◎	達成	優れた取組や状況等が見られ、数値目標が100%以上となり、順調に目標が達成されたもの
○	概ね達成	良い取組や状況等が見られ、数値目標が80%以上となり、概ね順調に目標が達成されたもの
△	あまり達成できなかった	課題が少なからずあり、数値目標が80%未満となり、目標があまり達成できなかったもの または、一定の成果はあったが新たな課題が生じたもの
×	未達成	課題が多く、まだ改善に向けた取組に着手できていないか、着手してもほとんど成果が上がらないなど、目標がほとんど達成できなかったもの

## ②「基本施策評価（総合評価）」（様式1）

基本施策評価（総合評価）については、主な取組（事務事業名）の評価及び取組状況の総括を参考に、基本計画の計画期間（令和4年度～令和8年度）において、評価年度での基本施策の到達度の観点から、総合的にSからDの5段階で評価しました。

評価区分		内 容
S	目標達成	基本施策において、取組の目標が順調に達成され、優れた成果があったもの
A	順調	基本施策において、取組の進捗状況が順調なもの
B	概ね順調	基本施策において、取組の進捗状況が概ね順調なもの
C	やや遅れている	基本施策において、取組の進捗状況がやや遅れているもの
D	遅れている	基本施策において、取組の進捗状況が遅れ、見直しが必要となるもの

## 9 点検・評価結果の概要

### （1）総合評価

令和4年2月に新たに策定した米子市教育振興基本計画は、計画期間を令和4年度から令和8年度までとしており、令和4年度は18の基本施策について、目標達成されたもの（S）は2件（11%）、順調なもの（A）は12件（67%）、概ね順調なもの（B）は3件（17%）、やや遅れているもの（C）は1件（5%）で、遅れているもの（D）はありませんでした。

評価のうち、目標達成されたもの（S）、順調なもの（A）、概ね順調なもの（B）を合わせた割合が9割を超えていることから、新型コロナウイルス感染症等の影

響はありましたが、全体としては概ね順調に進捗したものと評価しています。

ただし、順調なもの（A）、概ね順調なもの（B）と評価した基本施策においても、主な取組（個別事業）には、概ね達成（○）のものもあることから、個別に課題のある事業について、数値目標への対応を図っていく必要があります。

## （2）基本目標ごとの評価

基本計画では、その基本理念である「ふるさとに学び 未来へつなぐ 学ぶ楽しさのあるまち米子」の実現を図るため、4つの基本目標を掲げています。

その基本目標ごとの総合評価については、次のとおりです。

### ①「心を育む学びのあるまち」

基本施策	最終評価
1-1 豊かな心と創造性をもった子どもの育成	S
1-2 安全で安心な学校施設の改善	B
1-3 環境に配慮した学校教育環境整備の推進	B
1-4 学校ICT環境の整備	A
1-5 通学路の安全確保	A
1-6 学校図書館の充実	A

この基本目標には、上記の表にあるように、6つの基本施策を掲げており、そのうち目標達成されたもの（S）は1施策、順調なもの（A）は3施策、概ね順調なもの（B）は2施策でした。

基本施策ごとに見ると、「豊かな心と創造性をもった子どもの育成」では、『「教育支援センター～ぷらっとホーム～」の開設、「米子市校内サポート教室」の拡充など様々な体制が整い、好循環が生まれてきたことは評価できるが、依然として不登校の児童生徒が多いことから、教育支援センターの更なる機能の充実あるいは児童生徒が登校しやすい学級、学校作りを進めることが必要である。』との意見がありました。また、『学校教育においては、数値目標がそぐわない側面もあるので、全国平均値も含め多面的な数値で事業を評価することが大切である。』との見識がありました。

「環境に配慮した学校教育環境整備の推進」では、『学校施設の維持管理及びバリアフリー化の事業について、スピード感を持って取り組んでほしい。』との意見がありました。

「学校ICT環境の整備」では、『学習用タブレット端末の取扱いについて、学校現場で、もう少し使い方の指導をするなど注意喚起し、故障を防止できるように努めてほしい。また、タブレット端末の軽易な修繕については、職員自らが行うなど、工夫しながらICT機器の整備を行ったことは評価でき

る。』との意見がありました。

## ② 「学ぶ楽しさのあるまち」

基本施策	最終評価
2-1 確かな学力を身につけた子どもの育成	A
2-2 子ども地域活動の支援	A
2-3 子ども読書活動の推進	A
2-4 公民館運営の充実	A
2-5 公民館の整備	B
2-6 生活に役立つ図書の充実	A

この基本目標には、6の基本施策を掲げており、そのうち順調なもの（A）は5施策、概ね順調なもの（B）は1施策でした。

基本施策ごとに見ると、「確かな学力を身につけた子どもの育成」では、『学校の働き方改革として、教員の時間外勤務の縮減に取り組んでいるが、依然として教員は多忙であるので、児童生徒の学力向上に集中して取り組める環境を整える必要がある。』との意見がありました。

また、オープンスクールにおいて、『市内各校で、教育委員会が作成したビデオを使って同じ情報が提供できたのは評価できるので、今後も引き続き取り組んでほしい。』との意見がありました。

そのほか、『多額の費用を投じてタブレット端末を設置したことが無駄にならないように、しっかり活用してほしい。実際の授業で使えるように、その頻度をどう上げるかというのは、学校教育の大きなポイントである。』との見識がありました。

## ③ 「郷土で育む学びのあるまち」

基本施策	最終評価
3-1 学校給食における地産地消の推進	A
3-2 生涯学習活動の推進	C
3-3 歴史的文化遺産の保存と活用	A
3-4 学びあう地域づくりの支援	A

この基本目標には、4つの基本施策を掲げており、そのうち順調なもの（A）は3施策、やや遅れているもの（C）は1施策でした。

基本施策ごとに見ると、「学校給食における地産地消の推進」では、『地元食材を取り入れた献立募集において、市長賞などの新たな賞を創設するなど積極的な取組が、児童生徒の興味を引きつけ地元食材への関心の高まりにつ

ながっている。ワールドカップ給食などタイムリーな国際交流給食を実施することで、世界に目を向けると同時に日本の伝統やふるさとの食を見直すきっかけづくりとなったことは評価できる。』との意見がありました。

また、「生涯学習活動の推進」では、『市民講座について、幅広い内容のテーマ選定や体験を伴うものとするなど、魅力の差別化を図る必要がある。二十歳を祝う会で作成したスライドについて、いろいろな場面で使用し、有効活用を図ってほしい。』との意見がありました。

#### ④「健康で安心して学べるまち」

基本施策	最終評価
4-1 健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成	A
4-2 学校における食育の推進	S

この基本目標には、2つの基本施策を掲げており、そのうち目標達成されたもの（S）は1施策、順調なもの（A）は1施策でした。

基本施策ごとに見ると、「健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成」では、『情報モラルだけではなく、情報リテラシーの問題も時間を取って学習してもらいたい。』との意見がありました。

次に、「学校における食育の推進」では、『給食の残食量の傾向を新たな数値目標として取り入れるなどして、更なる施策の充実を目指してほしい。』との意見がありました。『「給食だより」の内容が分かりやすく、とても良いが、外国籍の方も理解できるようにルビがあると、さらに良い。』との見識がありました。

## 10 点検・評価票

基本施策の点検・評価票（様式1）に続けて個別事業の評価票（様式2）を掲載しております。

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-1	所管課	学校教育課
	項目名	豊かな心と創造性をもった子どもの育成		
	概要	<p>昨今の子どもたちには、他者と協調する力や人を思いやる心、感動する心、自尊感情の希薄さが見受けられる。また、そうした背景の中で起こるいじめ、不登校、学級が機能しない状況など、様々な課題が見られる。</p> <p>そこで、自他を尊重する態度の育成と児童生徒の自主的・自発的な活動を小・中学校が連携して推進するため、様々な分野の教育の充実に努める。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	心の教育の充実		◎
	②	人権教育の充実		◎
	③	生徒指導の充実		○
	④	ふるさと・キャリア教育の充実		◎
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b></p> <p>米子市版小中一貫教育推進事業や人権教育推進事業の推進によって、児童生徒の自治力の向上や人権教育の充実に図ることができた。増員されたスクールソーシャルワーカーを各校区に配置し、学校と協働しながら効果的な運営を行うことにより、多くの児童生徒やその家庭への支援を行うことができた。不登校児童生徒の新たな学びの場・居場所として、「教育支援センター～ぷらっとホーム～」や「米子市校内サポート教室」を整備（新設・増設）することができた。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b></p> <p>不登校児童生徒数は依然として多いことから、多様な学びの場や居場所を拡充していくとともに、より効果的な運営や他機関との連携体制を整備・充実していく必要がある。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	S			
評価理由	各事業における数値目標の達成状況と、内容的な前進を勘案し、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	「教育支援センター～ぷらっとホーム」の開設、「米子市校内サポート教室」の拡充など様々な体制が整い、好循環が生まれてきたことは評価できるが、依然として不登校の児童生徒が多いことから、教育支援センターの更なる機能の充実あるいは児童生徒が登校しやすい学級、学校作りを進めることが必要である。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-1 豊かな心と創造性をもった 子どもの育成	主な取組	①心の教育の充実
2 事務事業名	米子市版小中一貫教育推進 事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	義務教育9年間の学びを連続したものととらえ、各中学校区で「めざす子ども像」を共有し、内容を系統化したり、指導を継続化したりすることによって、学校教育における課題を解決し、確かな学力の定着や豊かな心と創造性の育成を図る。		
4 目 標	【目標】 各中学校区において、小・中学生によるリーダー研修会を定期的を開催することで、校内及び地域における児童生徒の自主的・自発的な活動の、より一層の推進を図る。		
	【前年度からの改善方法】 これまで、児童生徒の自主的・自発的な取組は校内での活動が中心であった。そこで、今後のコミュニティ・スクールを想定し、児童生徒が学校のみならず地域へも目を向けることができるように方向づけ、地域の方との交流を通して、ともに活動を行う機会を設定する。		
	【数値目標】 各中学校区において、小・中学生合同リーダー研修会を年2回以上開催する学校、及び児童生徒が地域活動を行う中学校区数が令和3年度より増加する。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 各中学校区において、リモートを活用しながら小・中学生合同のリーダー研修会を定期的を開催した。研修会では、学校課題だけでなく、地域の課題等についても話し合い、それぞれの課題改善に向けた取組を実践した学校もあった。		
	【成果】 コロナ禍においても、定期的リーダー研修会を開催し、児童生徒は自らの取組の成果等を振り返ることができた。また、地域との連携も徐々に広がりを見せ、児童生徒が地域の方と一緒に活動する機会が増えてきた。		
	【数値目標の実績値】 ・リーダー研修会を年2回以上開催 9校区 (R3…9校区) ・児童生徒による地域活動 7校区 (R3…4校区)		
6 課題・今後の対応	学校と地域が連携しながら、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の、より一層の推進を図る必要がある。		
7 個別事業評価	◎		



## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-1 豊かな心と創造性をもった 子どもの育成	主な取組	②人権教育の充実
2 事務事業名	人権教育推進事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	人権教育の充実に図り、自他の生命や人権を尊重し、仲間と共に差別をなくす実践力をもった児童生徒を育成する。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 児童生徒の発達段階等に応じて、学校における人権教育に関する教材や指導方法等の改善を図る。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 全ての小学校が「同和問題学習資料集」を活用するよう働きかけるとともに、活用の仕方について、点検・指導していく。 「人権・同和教育教材・学習モデル集」について、教材の作成にとどまらず、効果的な指導方法についてもあわせて示していく。		
	<b>【数値目標】</b> 「同和問題学習資料集」活用率・・・100%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 小学校の「同和問題学習資料集」については、前年度まで未活用の学校(35%)に改めて説明し、活用を促した。また、複数の学校を訪問して活用の仕方について指導助言を行ったり、人権学習の指導案をもとに研修会を実施したりした。 中学校の「人権・同和教育教材・学習モデル集」については、担当校と事務局で育てたい資質・能力や指導上の留意点等を協議しながら作成した。		
	<b>【成果】</b> 全ての小学校において、「同和問題学習資料集」に掲載されている教材を活用し、人権教育の充実に図ることができた。 中学校において、「人権・同和教育教材・学習モデル集」を令和4年度末に完成することができた。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 「同和問題学習資料集」活用率・・・100%		
6 課題・今後の対応	校種別で人権教育教材集を活用した授業づくりに関する研修会を開催し、好事例を紹介したり、効果的な活用方法を協議したりしながら、人権教育教材集の活用の充実を一層図っていきたい。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-1 豊かな心と創造性をもった 子どもの育成	主な取組	③生徒指導の充実(1)
2 事務事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	学校における生徒指導上の諸課題に対し、学校・児童生徒・保護者へ福祉的な視点で多様な支援を行うために、スクールソーシャルワーカー（以下「SSWR」という。）を継続的に配置・活用する。		
4 目 標	<b>【目標】</b> SSWRが学校と家庭、関係機関との連絡調整を行い、福祉的な視点に基づいたアセスメントやプランニングを行い、多様な支援を実施することで、生徒指導上の諸課題の未然防止や改善を図る。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> SSWRを増員することで、高まっているニーズに対応する。 校区担当のSSWRを配置することで、これまで以上に、迅速かつ細やかな対応ができるよう体制を整備する。		
	<b>【数値目標】</b> ・支援を行った児童生徒数が参考値を上回る。＜参考値＞R3…115名 ・支援の対象となった児童生徒のうち、状況が好転するケースの割合が参考値を上回る。＜参考値＞R3…84.3%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 各学校からの多様な相談事案に対して、SSWRを校区担当として配置し、機関連携の窓口として一本化したり、学校訪問回数を増やしたりしながら継続的に対応した。 また、定期的にSSWR連絡会やスーパーバイザーとの協議を行った。		
	<b>【成果】</b> 校区担当SSWRが学校と協働しながら、定例会等の効果的な運営につなげることができた。また、より多くの児童生徒やその家庭への支援につなげることができた。その過程で、定期的な連絡会やスーパーバイザーとの協議を行うことで、多面的な支援につなげることができた。 SSWRが機関連携の窓口として一本化されたことから、各機関の連携がスムーズになったり、役割の共通理解が図られたりし、より専門性を発揮できる環境となった。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> ・支援を行った児童生徒数…257名 ・支援の対象となった児童生徒のうち、状況が好転するケースの割合…71.6%		
6 課題・今後の対応	SSWRを増員したものの、相談等のニーズが多様化していることや、状況の好転に時間がかかるケースが多いことから、体制のさらなる充実を図る必要がある。 SSWRの配置・運用について、「学校配置型」、「巡回型」それぞれでモデル実施を行い、より効果的な活用を模索する。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-1 豊かな心と創造性をもった 子どもの育成	主な取組	③生徒指導の充実(2)
2 事務事業名	いじめ・不登校対応(教育 支援センター整備事業・多 様な学び推進事業・いい学 び推進事業)	所管課	学校教育課 こども施設課
3 事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中連携、機関連携をより一層推進し、近年増加傾向にある生徒指導上の諸課題に対し、未然防止、早期支援、効果的な支援が行えるよう、各学校の教職員の意識向上や学校体制の整備を図る。</li> <li>・喫緊の課題である不登校について、新たな不登校が生じない体制づくりと不登校児童生徒への支援をより一層充実する。</li> </ul>		
4 目 標	<b>【目標】</b> 各中学校区での安心・安全な学校づくりの取組を充実する。いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けた学校体制を整備する。不登校児童生徒数の減少と多様な学びの場の拡充をめざす。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育支援センター～ぷらっとホーム～」の開設、「米子市校内サポート教室」の拡充により、多様な学びの場の充実を図る。</li> <li>・小・中学校の生徒指導担当者会と連携を図り、学校体制と機関連携の充実を図る。</li> </ul>		
	<b>【数値目標】</b> 児童生徒の問題行動・不登校等の生徒指導上の諸課題に関する調査において、不登校児童生徒の割合が参考値を下回る。 <参考値> R3全国平均値 小学校…1.3% 中学校…5.0% 全体…2.6%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治の取組における児童生徒や教職員の交流については、中学生が校区の小学校を巡回したり、リモートで実施したりした。</li> <li>・不登校児童生徒の新たな学びの場・居場所として、教育支援センターを8月に開設した。また、米子市校内サポート教室設置校を1校から3校に増やした。「こども総合支援会議」(年3回)や小・中学校の生徒指導担当者会(毎月)において、生徒指導上の諸課題についての現状と対応について、情報共有や協議を行った。</li> </ul>		
	<b>【成果】</b> 多様な学びの場・居場所を拡充し、学校復帰のきっかけづくりや社会的自立に向けた学習支援や体験活動の充実を図ったことで、不登校児童生徒のうち前向きな変容が見られた児童生徒の割合が増えた。様々な会議において、より効果的な施策を検討・協議する中で、米子市校内サポート教室の増設やSSWRの増員が実現した。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> R4米子市 小学校…1.5% 中学校…4.5% 全体…2.5%		
6 課題・今後の対応	不登校は依然として大きな課題であることから、新たな不登校が生じない体制づくりと多様な学びの機会の拡充を図る必要がある。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-1 豊かな心と創造性をもった 子どもの育成	主な取組	④ふるさと・キャリア教育 の充実
2 事務事業名	米子市ふるさと・キャリア 教育推進事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	ふるさとに誇りをもち、生きる基盤を培う「ふるさと教育」と、その基盤の上に自らの生き方の道筋を描く「キャリア教育」とを相互に関わらせた「ふるさと・キャリア教育」を位置付け、各教科等を横断した教育活動を行う。		
4 目 標	【目標】 様々な学習の中で家庭や地域とのつながりを実感し、自らが暮らす「ふるさと米子」に誇りや愛着をもち、自信を持って自己実現に向かうことができる児童生徒の育成を図る。		
	【前年度からの改善方法】 各小・中学校において、一貫した教育ができるように計画を立て、児童生徒一人一人が「キャリア・パスポート」を活用する。また、前年度に職場体験学習などが一部実施できなかったことから、コロナ禍でも実施できる方法を検討する。		
	【数値目標】 ①全国学力・学習状況調査において、将来の夢や目標をもっていると回答する児童生徒の割合が参考値と同値または上回る。 ＜参考値＞ R3小学校…78.3% 中学校…66.0% ②地域の人材や教材に触れるために、活用したゲストティーチャーの人数が、参考値を上回る。 ＜参考値＞ R3小学校…48人 中学校…9人		
5 取組状況・成果	【取組状況】 各小・中学校において、ふるさと・キャリア教育を年間計画に位置付け、児童生徒一人一人が「キャリア・パスポート」を活用し、記録を残した。また、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、職場体験学習などに代えてゲストティーチャーを招いた学習やオンラインを活用した学習を実施した。		
	【成果】 全ての小・中学校において、「キャリア・パスポート」活用し、学びの記録を残すことができた。また、コロナ禍においても地域の人材や教材に触れるために、ゲストティーチャーを招いた学習やオンラインを活用した学習を実施したことで、新たな地域の人材から学ぶことができた。		
	【数値目標の実績値】 ①小学校…78.0% 中学校…68.1% ②小学校…70人 中学校…10人		
6 課題・今後の対応	今後も将来の夢や目標をもつ児童生徒が少しでも多くなるように「キャリア・パスポート」の記録を生かしながら学習を進めていく必要がある。また、コミュニティ・スクールの拡大にともない、新たな地域人材や教材に触れる学習を模索していきたい。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-2	所管課	こども施設課
	項目名	安全で安心な学校施設の改善		
	概要	<p>老朽化が進行している学校施設の大規模改修を実施し、教育環境の改善と施設の長寿命化を図る。</p> <p>また、地震等の災害発生時に児童生徒の安全を確保するとともに、地域住民の避難所としての役割を果たすため、非構造部材の耐震化に努める。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	学校施設大規模改修・非構造部材の耐震化		○※
	②	学校施設整備(改修)事業		○
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b></p> <p>学校施設の大規模改修・非構造部材の耐震化及び学校施設整備(改修)事業については、一部、世界的な資材の供給不足の影響により工期の遅れが生じたものの、概ね計画どおりの事業を実施することができた。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b></p> <p>依然として、老朽化が進行している施設が多く、引き続き長寿命化等の老朽化対策を着実に進めていく必要がある。</p> <p>児童生徒の安全安心を確保し、教育環境の改善及び施設の長寿命化を図るために必要な改修等を行っていく。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	B ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	計画していた事業について、一部で外部要因による工期の遅れが生じたものの、概ね計画どおり実施することができたため、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	学校施設の管理について、施設の劣化を遅らせたり、不具合の早期発見につながるよう、計画訪問などの機会に、学校現場に対して学校管理の視点でポイントを絞って引き続き助言してほしい。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-2 安全で安心な学校施設の改善	主な取組	①学校施設大規模改修・非構造部材の耐震化
2 事務事業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>啓成小学校校舎等整備事業</li> <li>福米西小学校屋内運動場等整備事業</li> <li>小学校長寿命化改修事業</li> </ul>	所管課	こども施設課
3 事業の概要	老朽化が進行している学校施設の構造体の長寿命化やライフラインの更新等を行い、児童生徒の安全安心を確保し、教育環境の改善及び施設の長寿命化を図る改修を行う。		
4 目標	<b>【目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>啓成小学校校舎等(グラウンドを除く)の改築等に係る工事を完了する。</li> <li>福米西小学校の屋内運動場及びプールの改築等に係る工事を行う。</li> <li>車尾小学校の長寿命化改修に向け、実施設計を行う。</li> </ul>		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 引き続き児童生徒の安全安心を確保し、教育環境の改善及び施設の長寿命化を図るため、必要な改修を行っていく。		
	<b>【数値目標】</b> 実施率 100%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度に着工した啓成小学校校舎等の改築等工事を引き続き行った。</li> <li>福米西小学校の屋内運動場及びプールの改築等の工事を行った。</li> <li>令和5、6年度に予定している車尾小学校の長寿命化改修に向けた実施設計を行った。</li> </ul>		
	<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>啓成小学校校舎等の改築等工事及び車尾小学校の長寿命化改修に向けた実施設計について予定どおり完了した。</li> <li>福米西小学校について、プールの改築等工事については予定どおり完了した。屋内運動場については、世界的な資材の供給不足等により、年度内の完了ができなかったが、令和5年度の第一四半期に完了、供用開始した。</li> </ul>		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 実施率 90.16% (執行額ベース)		
6 課題・今後の対応	老朽化が進行している施設が多く、引き続き長寿命化等の老朽化対策を推進していく必要がある。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-2 安全で安心な学校施設の改善	主な取組	②学校施設整備(改修)事業
2 事務事業名	・屋内運動場整備事業 ・校舎屋上防水改修事業 ・放送設備整備事業 他	所管課	こども施設課
3 事業の概要	児童生徒の安全に関わるもの、授業などに影響を及ぼすもの及び施設を維持する上で必要なもの等の整備(改修・増築)を行う。		
4 目標	<b>【目標】</b> 児童生徒の安全に関わるもの、授業などに影響を及ぼすもの及び施設を維持する上で必要なもの等として、以下の整備を行う。 ・屋内運動場床改修(淀江小) ・校舎屋上防水改修(彦名小、淀江小) ・放送設備改修(福生東小)・渡り廊下改修(福米中、弓ヶ浜中) ・プール浄化設備改修(車尾小、福米東小、大篠津小、就将小、加茂小)		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 引き続き、以下のような整備のうち児童生徒の安全に関わるもの、授業に影響を及ぼすものから優先して対応していく。 ・屋内運動場床改修 ・校舎屋上防水改修 ・放送設備改修 ・渡り廊下改修 ・プール浄化設備改修 等		
	<b>【数値目標】</b> 実施率 100%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 児童生徒の安全に関わるもの、授業などに影響を及ぼすもの及び施設を維持する上で必要な各種整備を行った。		
	<b>【成果】</b> 目標欄に掲げた各種整備について、計画通り実施した。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 実施率 100%		
6 課題・今後の対応	老朽化が進行している施設が多く、引き続き長寿命化等の老朽化対策を推進していく必要がある。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-3	所管課	こども施設課
	項目名	環境に配慮した学校教育環境整備の推進		
	概要	学校施設の維持管理に必要な管理・修繕工事の実施にあわせて、教育環境の充実や施設のバリアフリー化を行うとともに、老朽化した施設の長寿命化に際して、環境に配慮した学校施設整備を計画的に推進する。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	学校施設維持管理事業		○
	②	学校施設のバリアフリー化事業		○
取組状況の総括	<b>【成果】</b> 啓成小学校の校舎等改築工事の実施にあたっては、窓に複層ガラス、照明器具にLED照明、トイレに節水型機器を使用する等、環境負荷の軽減につながる部材等の使用に努め、またバリアフリー対応の施設とした。 そのほかの施設についても、明道小ほか4校で空調設備改修工事を行い、より省エネ効果の高い機器を設置した。 また、淀江小学校では玄関付近のバリアフリー化（スロープ設置工事）を行った。			
	<b>【課題・今後の対応】</b> 学校施設等の改修に際しては、環境面、コスト面の両面から、環境負荷の軽減につながる部材、省エネ効果の高い機器の使用が一層求められている。 また、学校施設は災害時の避難所となるため、バリアフリー化を着実に推進する必要がある。			
基本施策評価 (総合評価)	B			
評価理由	環境に配慮した学校施設整備及び施設のバリアフリー化に係る工事については、令和4年度に計画していた工事について全て計画どおりに実施することができたが、引き続き着実に推進していく必要があるため。			
教育委員の 意見・指摘	学校施設の維持管理及びバリアフリー化の事業について、スピード感を持って取り組んでほしい。			



## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-3 環境に配慮した学校教育環境整備の推進	主な取組	①学校施設維持管理事業
2 事務事業名	・啓成小学校校舎等整備事業 ・特別教室等空調設備改修事業	所管課	こども施設課
3 事業の概要	学校施設の維持管理に必要な改修工事等の実施にあたり、環境負荷の軽減につながる部材等の採用に努める。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 校舎等の改築工事及び空調設備改修工事の際には、環境負荷の軽減につながる部材、省エネ効果の高い機器を採用し設置する。 ・啓成小学校校舎等改築工事 ・図書室ほか空調設備改修工事 (明道小、箕蚊屋小、義方小、河崎小、淀江中)		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 引き続き学校施設・設備の改修等の際には、環境に配慮した部材、製品等の使用に努める。		
	<b>【数値目標】</b> 実施率 100%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 啓成小学校の校舎等改築工事においては、窓に複層ガラス、照明器具にLED照明、トイレに節水型の機器を使用した。 空調設備改修工事(明道小、箕蚊屋小、義方小、河崎小、淀江中)においては、省エネ効果の高い機器を採用し設置した。		
	<b>【成果】</b> 目標どおり、令和4年度に計画していた啓成小学校の校舎改築工事及び明道小ほか4校の空調設備改修工事において、環境に配慮した部材、機器を採用し、環境負荷の軽減を図った。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 実施率 100%		
6 課題・今後の対応	学校施設等の改修の際には、地球温暖化等の環境問題への対応及び光熱水費等のコスト抑制を考慮していく必要が一層高まっている。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-3 環境に配慮した学校教育環境整備の推進	主な取組	②学校施設のバリアフリー化事業
2 事務事業名	・バリアフリー化推進事業	所管課	こども施設課
3 事業の概要	障がいのある児童生徒が支障なく学校生活を送れるよう、また、地域コミュニティの拠点及び避難所として十分な機能を果たすよう、スロープ等の整備に努める。		
4 目標	<b>【目標】</b> バリアフリー化未実施の学校施設について、バリアフリー化を図る。 ・淀江小学校玄関口付近のバリアフリー化（スロープ設置） ・啓成小学校校舎等改築工事に伴うバリアフリー化		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> バリアフリー化未実施の施設について引き続き継続的にバリアフリー化を図っていく。		
	<b>【数値目標】</b> 実施率 100%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 淀江小学校の玄関口付近について、バリアフリー化（スロープ設置）工事を実施した。 改築した啓成小学校校舎についてバリアフリー対応の施設とした。		
	<b>【成果】</b> 予定していた工事について計画どおり実施した。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 実施率 100%		
6 課題・今後の対応	スロープが未設置の施設（校舎及び屋内運動場）について、順次、整備を行っていく必要がある。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-4	所管課	こども施設課 学校教育課
	項目名	学校ICT環境の整備		
	概要	ICT機器の利用が児童生徒の学習への興味関心を高め、教え合い学び合う協働学習にも有効と考えられることから、段階的にインフラ、ICT機器の整備を行い、併せて学校業務支援システムの導入と活用により、教育の情報化の推進を図る。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	ICT機器整備事業		◎
取組状況の総括	<b>【成果】</b> 令和2年度に配備した学習用タブレット端末(約12,000台)及び高速無線ネットワーク網の保守管理を行い、機器の故障等による学習環境への影響を最小限に留めるとともに、端末の不足が生じる部分について調達を行った。また、タブレット端末の軽易な修繕については職員が自前で行うなどコストの軽減を図った。 教職員向けの研修として、計4回の「ICT活用力向上研修」を行い、のべ56名の教員が参加した。			
	<b>【課題・今後の対応】</b> 引き続きタブレット端末や高速無線ネットワーク網を適正な状態に維持するとともに、効果的なICTの活用が図られるよう、教職員に向けた研修を実施していく必要がある。 また、今後は、大量の端末やネットワーク機器について、適切なタイミングで更新を行っていくことが大きな課題となってくる。			
基本施策評価 (総合評価)	A			
評価理由	大きな問題もなく事業を実施しているが、タブレット端末及びネットワーク機器の保守管理や教職員に対する研修については、継続的に行っていく必要があるため。			
教育委員の 意見・指摘	学習用タブレット端末の取扱いについて、学校現場で、もう少し使い方の指導をするなど注意喚起し、故障を防止できるように努めてほしい。また、タブレット端末の軽易な修繕については、職員自らが行うなど、工夫しながらICT機器の整備を行ったことは評価できる。 端末の更新時期が近づいていることから、国への要望は継続してほしい。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-4 学校ICT環境の整備	主な取組	①ICT機器整備事業
2 事務事業名	教育用パソコン管理事業	所管課	こども施設課 学校教育課
3 事業の概要	教育用パソコン等の機器の更新、タブレット端末等の整備、及び無線LAN機器の増強等を進める。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 児童生徒に配布している学習用タブレット端末の修繕及び不足分の調達、校内ネットワーク環境の保守管理を行うとともに、教職員向けのICT活用に関する研修を実施し、効果的なICT活用が図られるような環境整備に努める。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 引き続き、クラウドでのネットワーク監視、学習用タブレット端末のサポートセンターなどを活用しながら校内のICT環境の保守管理を行う。 学習用タブレット端末の活用に係る対面式研修を実施し、教員のICTへの理解度を深める。		
	<b>【数値目標】</b> 端末充足率 100%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 学習用タブレット端末の不足分の調達、故障した端末の修理等を行うとともにクラウドでのネットワーク監視、学習用タブレット端末のサポートセンターなどを活用しながら、校内のICT環境の保守管理を行った。 教職員への研修については、各校代表者及び希望者を対象とした「ICT活用力向上研修」を実施した。		
	<b>【成果】</b> 学習用タブレット端末及びネットワーク機器の故障等に機動的に対応し、故障等による学習環境への影響を最小限に収めることができた。特に、タブレット端末の軽易な修繕については職員が行うことにより、機動的で柔軟な対応が可能になるとともに、修繕費用の軽減も図ることができた。 計4回の「ICT活用力向上研修」を行い、のべ56名の教職員が参加した。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 端末充足率 100%		
6 課題・今後の対応	今後は、大量の端末・ネットワーク機器を維持するとともに、適切に更新を行っていくことが大きな課題となる。 学習中の端末のさらなる利活用を推進するため、オンライン授業の日常化を図るような取組を推進したり、教職員の活用レベルに合わせた研修を計画、実施する。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-5	所管課	こども支援課
	項目名	通学路の安全確保		
	概要	児童生徒が安全に安心して通学するため、米子市通学路交通安全プログラムに基づき、関係機関が連携して危険箇所の安全対策を推進し、通学路の安全確保を図る。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実		◎
取組状況の総括	<b>【成果】</b> 関係機関が連携して危険箇所の合同点検を行うことで、ハード又はソフト面から実施可能な対策を協議・検討し、状況に応じた対策を実施することができた。			
	<b>【課題・今後の対応】</b> 危険箇所の中には、ハード対策が困難な箇所もあり、通学路の変更や地域住民との連携等、ソフト対策も含めて総合的に児童生徒の安全を確保する必要がある。			
基本施策評価 (総合評価)	A			
評価理由	数値目標の達成状況と、継続的な取組を勘案し、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	見守り状況を把握するため、引き続き少年育成センターなど関係機関と連携して、通学路の安全確保に努めてほしい。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-5 通学路の安全確保	主な取組	①危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実
2 事務事業名	危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実	所管課	こども支援課
3 事業の概要	各学校で通学路の安全点検を行い、連絡協議会で協議するとともに、教育委員会、警察、道路管理者及び学校等の関係機関が危険箇所について合同点検を実施し、通学路の安全対策を実施する。		
4 目標	【目標】 連絡協議会を開催し、すべての新規危険箇所の点検を行い、通学路の安全対策を実施する。		
	【前年度からの改善方法】 引き続き交通安全をはじめ、通学路の総合的な安全対策を進める。		
	【数値目標】 新規危険箇所のうち、ハード又はソフト対策を実施した箇所の割合 100%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 連絡協議会（参加者：学校代表、警察、道路管理者、教育委員会事務局）を開催した。 また、新規危険箇所（全45箇所）について合同点検を行い、ハード又はソフト対策を実施した。		
	【成果】 関係機関が連携して危険箇所の合同点検を行うことで、ハード又はソフト面から実施可能な対策を協議・検討し、状況に応じた対策を実施することができた。		
	【数値目標の実績値】 新規危険箇所のうち、ハード又はソフト対策を実施した箇所の割合 100%		
6 課題・今後の対応	今後も引き続き、連絡協議会の開催及び合同点検の実施を通して危険箇所対策を検討・実施する。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-6	所管課	こども施設課 学校教育課
	項目名	学校図書館の充実		
	概要	心豊かな感性を育み、自ら学ぶ力を育む学校図書館は、子どもたちの健全育成と学習支援を行う重要な拠点であり、蔵書数の充実に加えて、本の読み聞かせや朝読書など、児童生徒に読書に興味を持たせ、親しめる図書館づくりに努める。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	学校図書館運営事業		○※
取組状況の総括	【成果】 購入図書が増加により、蔵書全体の充実を図っており、全ての学校図書館の蔵書数が図書標準を達成している。 全ての小中学校に通年で学校司書を配置して図書館活動の充実を図る体制を整えており、貸出冊数については、学校全体が新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けてイレギュラーな運営とならざるを得ない中、前年度と同程度の実績を維持した。			
	【課題・今後の対応】 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことに伴い、改めて、学習支援、読書支援の拠点としての活動を充実させていく必要がある。			
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	蔵書数は増加しているものの、貸出冊数は前年度と同程度となったため、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	学校図書館の運営が新型コロナウイルス感染症対策のために通常通りではなく、数値目標は伸びなかったものの、学校図書館の蔵書数が図書標準を達成しており、さらに司書の配置についても全ての学校に配置し、国が作成した5ヶ年計画の目標値を上回っていることは評価できる。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-6 学校図書館の充実	主な取組	①学校図書館運営事業
2 事務事業名	学校図書館運営事業 学校運営標準経費	所管課	こども施設課 学校教育課
3 事業の概要	学校司書と司書教諭とが連携し、朝読書や読み聞かせ、調べ学習など、子どもたちを本や読書に親しませる活動を推進することにより、児童生徒一人当たりの貸出冊数の増加に努める。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 蔵書の充実を図るとともに、夏季休業期間の開館により、児童生徒の読書量を増加させるとともに、質の向上した読書を定着させる。 また、学習の場としての利用や自由研究の相談により、主体的・対話的で深い学びの実現へつなげる。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 夏季休業期間中に学校図書館を開館し読書活動及び学習活動を充実することで、児童生徒の読解力を高め学力の向上を図るとともに、自由研究等をとおして情報活用能力をさらに育成する。		
	<b>【数値目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の蔵書冊数合計 411,941冊 (前年度実績)</li> <li>・児童生徒一人あたりの年間貸出冊数 84冊/人 (前年度実績)</li> <li>・読み聞かせや朝読書に取り組む小学校数 23校/23校</li> <li>・図書館利用授業や読書活動向上に工夫する中学校数 10校/10校</li> </ul>		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 前年度以上の図書購入予算を確保して蔵書の充実に努め、全ての学校図書館の蔵書数が図書標準を達成している。(全校合計の標準達成率: 124.5%) 全ての小中学校に通年で学校司書を配置し、夏季休業期間の取組として開館日を増やすとともに、自由研究に活用できる資料を市立図書館と連携して準備した。 年間を通して定期的に「家読」の日を設け、家庭での読書習慣をつけるように努めた。 また、老朽化した学校図書館システムの更新を行った。		
	<b>【成果】</b> 購入図書の増加により、蔵書全体の充実を図ることができた。 貸出冊数については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける中、前年度と同程度の貸出冊数となった。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の蔵書冊数合計 416,601冊</li> <li>・児童生徒一人あたりの年間貸出冊数 84冊/人</li> <li>・読み聞かせや朝読書に取り組む小学校数 23校/23校</li> <li>・図書館利用授業や読書活動向上に工夫する中学校数 10校/10校</li> </ul>		
6 課題・今後の対応	夏季休業期間中の開館日をより一層増やすことで、児童生徒の学習の場を提供するとともに、貸出冊数の増加につなげる。 学校司書・司書教諭が連携し、教職員の教材準備への援助・協力を行うことにより、授業での学校図書館利用の増加を図る。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		



## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	2-1	所管課	学校教育課 こども政策課 こども支援課 こども相談課
	項目名	確かな学力を身につけた子どもの育成		
	概要	<p>「生きる力」を育むためには、知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲などの確かな学力の育成が必要である。米子市の子どもは、習得した知識を活用する力を伸ばすことや計画的な家庭学習の定着などに課題がある。</p> <p>そこで、今後は、全教育活動を通して育む学力形成、子ども一人一人に応じたきめ細かな指導、小・中学校で連携した教育、家庭との連携などに取り組む。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	学力の向上を図る学びの充実		○
	②	特別支援教育・インクルーシブ教育の推進		○
	③	切れ目ない支援体制の推進		◎
	④	外国語・英語教育の充実		○
	⑤	情報教育とICT活用による授業の充実		○
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b></p> <p>とっとり学力・学習状況調査(小学4年生～中学2年生)において、国語・算数ともに、全ての学年において県学力レベルと同値または上回る結果が得られた。通級指導教室の運営の見直しを行った結果、改善退級する児童生徒が増え、待機児童数を減らすことができた。</p> <p>また、米子市小学校オープンスクールにおいては、コロナ禍においても、各園と連携し、保護者へ可能な限り積極的に周知することで、対象児の参加率を上昇することができた。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b></p> <p>小学3年生以下の学力を的確に把握・分析し、学校における授業や取組の改善や、市としての新たな施策を検討していく必要がある。また、個に応じた指導や支援の充実に関する教員の授業(指導)力向上について取り組んでいく必要がある。</p> <p>より実態に即した学校支援員の配置に努めていく必要がある。</p>			
基本施策評価(総合評価)	A			
評価理由	各事業における数値目標の達成状況と、内容的な前進を勘案し、この評価とした。			
教育委員の意見・指摘	<p>学校の働き方改革として、教員の時間外勤務の縮減に取り組んでいるが、依然として教員は多忙であるので、児童生徒の学力向上に集中して取り組める環境を整える必要がある。</p> <p>オープンスクールにおいて、市内各校で、教育委員会が作成したビデオを使って同じ情報が提供できたのは評価できるので、今後も引き続き取り組んでほしい。</p>			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-1 確かな学力を身につけた子どもの育成	主な取組	①学力の向上を図る学びの充実
2 事務事業名	とっとり学力・学習状況調査、よなご学力調査	所管課	学校教育課
3 事業の概要	米子市の全ての小学4・5・6年生と中学1・2年生を対象とした「とっとり学力・学習状況調査」と、米子市の全ての小学3年生を対象とした「よなご学力調査」を実施するとともに、結果を分析することによって課題解消に向けての取組を行う。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 「とっとり学力・学習状況調査」及び「よなご学力調査」の結果を分析し、課題解決に向けて指導方法の工夫改善を図る。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 「とっとり学力・学習状況調査」では、児童生徒の経年比較及び児童生徒アンケートの結果分析を行い、課題把握と学級経営、授業内容の改善を図る。令和3年度の調査結果では、特に小学4・5年生での学力に課題が見られたことから、学力保障及び授業改善に資するための教職員研修の実施や、計画訪問でのポイントを絞った指導助言等を行う。 「よなご学力調査」では、小学3年生段階での学力の定着度について把握し、研修等でより確かな実態把握及び学習指導の方法について検討する。		
	<b>【数値目標】</b> ・「とっとり学力・学習状況調査」において、各学年各教科全10調査で県の学力レベルと同値または上回る。 ・「よなご学力調査」において、目標値（設問ごとに設定されている、正答することを期待した児童の割合）と同値または上回る。		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 「とっとり学力・学習状況調査」では、県と連携し、正答率、学力レベルの伸びに加え、学習方略、非認知能力を踏まえた評価、分析をすることで、学級経営、授業内容、個に応じた支援について課題把握及び改善を行った。「よなご学力調査」を小学3年生で実施し、下学年段階での児童個々の学力を分析することで、実態把握と授業改善を行った。		
	<b>【成果】</b> 「とっとり学力・学習状況調査」では、学力レベルにおいて各学年各教科全10調査で県と同値または上回った。中学1・2年生においては、全4項目の平均正答率で県を上回った。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> ・「とっとり学力・学習状況調査」 県学力レベルとの比較（◎上回る ○同値 △下回る） 国語 小4○ 小5○ 小6○ 中1◎ 中2○ 算数 小4○ 小5○ 小6◎ 中1○ 中2◎ ・「よなご学力調査」（小学3年生実施） 目標値との比較（◎上回る ○同値 △下回る） 国語 △ 算数 △		
6 課題・今後の対応	各学力調査を引き続き経年で分析し、各学校、各学年及び児童生徒個々の状況を深く把握するとともに、課題を改善するための取組を模索する。小学3年生については、引き続き課題が見られるため、低学年時からの学力把握、学力向上を含めた課題改善の方法を検討する必要がある。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-1 確かな学力を身につけた子ども の育成	主な取組	②特別支援教育・インク ルーズ教育の推進
2 事務事業名	にこにこサポート事業 通級指導教室整備事業	所管課	こども支援課 学校教育課
3 事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や児童生徒の状況に応じて学校支援員を配置し、通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒をはじめとする支援の必要な児童生徒に対して、支援を行う。</li> <li>・通級指導が必要な児童生徒に対して、適切かつ効果的な指導体制を整備する。</li> </ul>		
4 目 標	<b>【目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や児童生徒の状況を把握し、適正に学校支援員を配置する。また、支援の必要な児童生徒に対して、適切な支援を行う。</li> <li>・通級指導が必要な児童生徒に対して、適切かつ効果的な指導体制を整備する。</li> </ul>		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの聞き取り等をもとに、支援の必要な児童生徒の実態を把握する。また、担任と協力しながら支援計画を作成し、支援に必要な教材等の準備を行う。</li> <li>・通級指導教室の待機児童が増加してきたことをふまえ、通級担当者と情報交換会を毎月実施し、通級指導期間や入級申請方法等の見直しを行う。</li> </ul>		
	<b>【数値目標】</b> ①配置数…100% ②待機児童生徒数が参考値と同値または下回る。＜参考値＞R3…16人		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の必要な児童生徒の実態把握に努め、各学校のニーズに応じて学校支援員を小・中学校に配置した。また、担任等と連携し、支援の計画を立て、教材を準備しながら、支援の必要な児童生徒の実態に合った支援を行った。</li> <li>・小学校の通級指導設置校の配置替えや全校巡回方式を取り入れたことにより、多くの児童が入級することができた。</li> </ul>		
	<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援員が関わったほぼ全ての児童生徒の状況が好転した。</li> </ul> ※好転した例 <ul style="list-style-type: none"> <li>○返事、挨拶、靴揃え等ができるようになった。</li> <li>○パニックになりがちな児童の情緒が安定し、教室等で落ち着いて過ごせるようになった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級の巡回指導が増えたことで、学校と連携しながら指導ができるようになり、改善退級する児童生徒が増えた。</li> </ul>		
	<b>【数値目標の実績値】</b> ①配置率…96% ②待機児童生徒数…8人		
6 課題・今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人の学校支援員が支援にあたることのできる児童生徒数には限りがあり、学校規模または支援の必要な児童生徒の在籍数によっては、支援が十分に行き届かないことがある。より実態に即した配置に努めていきたい。</li> <li>・改善退級した児童生徒に対して、退級後のフォローアップ体制を充実させる必要がある。</li> </ul>		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-1 確かな学力を身につけた子どもの育成	主な取組	③切れ目ない支援体制の推進
2 事務事業名	切れ目ない支援体制の推進	所管課	こども政策課 学校教育課 こども相談課
3 事業の概要	就学前段階から義務教育段階、進学・就労段階に至る過程で、円滑な支援の引き継ぎが行えるよう、支援体制を整備する。 また、教育と福祉・医療・労働分野等の関係機関との連携体制を整備し、児童生徒の教育や支援の充実を図る。		
4 目 標	【目標】 保幼小の連携を深め、スムーズな移行支援を行うとともに、教育・福祉保健分野の支援者によるよりきめ細かなチーム支援を実施し、子どもの育ちを一貫して支えていく体制の充実を図る。		
	【前年度からの改善方法】 スクールソーシャルワーカーを増員し、機関連携体制を充実する。「接続カリキュラム」リーフレットを作成・周知し、1年生アドバイザーを新たに配置することで保幼小連携体制を充実する。オープンスクールの開催方法を工夫し、園と協力しながら積極的に周知する。		
	【数値目標】 米子市小学校オープンスクールの対象児の参加率が参考値を上回る。 【参考値】66% (前年度実績)		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・医療的ケア児に対する、適切な看護師配置とその運用 ・スクールソーシャルワーカーと家庭児童相談室の一体的な取組の推進 ・要支援年長児の家庭と小学校の連携支援 ・保幼小連携の充実として、保幼小合同情報交換会、就学相談会の開催 ・米子市小学校オープンスクールの全23校での開催 ・切れ目ない支援体制整備実務者会議・連絡会の開催		
	【成果】 医療的ケア児の就学について、関係課が連携することで学びの場の環境を整えることができた。コロナ禍においても、HPや各園と連携し保護者へ積極的に周知することで、オープンスクールの参加率が上昇した。スクールソーシャルワーカーと家庭児童相談室との一体的な取組をはじめ、教育委員会とこども総本部が連携し、各事業を推進することができた。		
	【数値目標の実績値】 米子市小学校オープンスクールの対象児の参加率 76%		
6 課題・今後の対応	教職員対象の研修や1年生アドバイザーの園・学校訪問により、各カリキュラムの充実やねらいに沿った実施を目指す。オープンスクールは、全校一斉開催するなど、より効果的な周知と実施を行う。スクールソーシャルワーカーを増員し、個別の支援のより一層の充実を図る。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-1 確かな学力を身につけた子ども の育成	主な取組	④外国語・英語教育の充実
2 事務事業名	英語指導助手活用事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	英語指導助手（以下「ALT」という。）を小・中学校に配置し、外国語活動・外国語（英語）科の時間に活用し、児童生徒の外国語に係る資質・能力の育成に努めるとともに、諸外国の多様な生活や文化を理解し、尊重する態度を育成する。		
4 目標	<b>【目標】</b> ALTを活用し、外国語によるコミュニケーションの機会を充実させることで、児童生徒の外国語に係る資質・能力の育成及び諸外国の多様な生活や文化を理解・尊重する態度を育成する。また、教職員への研修体制を整備し、小・中学校における外国語活動及び外国語（英語）科の指導体制の充実及び授業力向上を図る。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> ALTを活用した指導者研修会「English Park In 米子市」のさらなる内容改善と動員数の増加を図るため、回数増に加え、委託業者と連携した教職員研修「English Park For Teacher」を計画し、実施する。		
	<b>【数値目標】</b> 「English Park In 米子市」の実施 3回 うち「English Park For Teacher」の計画・実施 1回		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 委託業者、ALT、各学校及び市が連携し、「English Park In 米子市」を2回実施した。2回とも「English Park For Teacher」として実施し、ALT6名と児童との交流活動の参観に加え、スモールトークについての演習を行った。		
	<b>【成果】</b> ALTを6名配置し、小学校では中学年以上、中学校は全学年で質の高い外国語の指導を行うことができた。「English Park In 米子市」では、2回の開催で会場校以外の教職員が34名参加し、外国語活動及び外国語（英語）科の授業力向上を図ることができた。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 「English Park In 米子市」の実施 2回 うち「English Park For Teacher」の実施 2回		
6 課題・今後の対応	「English Park In 米子市」の開催回数を増やす。うち数回を、4～6年生を対象にしたALT主導のアクティビティを行う「English Park For Students」として実施する。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-1 確かな学力を身につけた子ども の育成	主な取組	⑤情報教育とICT活用による 授業の充実
2 事務事業名	情報教育普及事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	情報教育の充実を図ることにより、発達段階に応じた情報活用能力を身につけ、情報手段を適切かつ主体的に活用できる児童生徒を育成する。また、GIGAスクール構想を踏まえ、教職員の指導体制の充実を図るとともに、児童生徒が主体的にICTを活用することができる力を育む。		
4 目 標	<b>【目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育を系統的・計画的に推進するための体制を整える。</li> <li>・教職員の情報機器活用能力の向上を図るとともに、児童生徒が主体的に情報を収集、処理、発信するための基礎的能力の育成及び環境整備に努める。</li> </ul>		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての学校において、年間指導計画等の全体計画を作成する。</li> <li>・研修会を引き続き実施するとともに、ICTを活用した授業について計画訪問等で指導助言をし、各種学力調査児童生徒質問紙のICT活用に関する内容について分析することで、各校及び児童生徒の実態を把握し、より有効なICT活用の取組を検討・実施する。</li> </ul>		
	<b>【数値目標】</b> ①情報教育年間指導計画等の全体計画を作成した学校数が参考値と同値または上回る <参考値>R3小学校…22校 中学校…8校 ②全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」に対する肯定的回答が全国平均値を上回る。 <全国平均値> R4小学校…94.4% 中学校…92.6%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育年間指導計画等の全体計画が未完成の学校に状況を聞き取り、指導を行いながら、全ての学校が全体計画を作成するように促した。</li> <li>・計画訪問において、ICT活用に視点を当てた指導助言を行った。研修会を実施して教職員のさらなるスキルアップを図るとともに、児童生徒がより主体的に学ぶための端末利用やソフト活用について周知した。</li> </ul>		
	<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての学校が全体計画を作成し、情報モラル教育の推進を図った。</li> <li>・研修では、基本的な操作スキルに加え、授業の中での有効なタブレット端末の活用方法について理解を深め、授業改善を図ることができた。</li> </ul>		
	<b>【数値目標の実績値】</b> ①情報教育年間指導計画等の全体計画の作成 R4小学校…23校 中学校…10校 ②全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査 R4小学校…95.5% 中学校…94.6%		
6 課題・今後の対応	校区の小・中学校で連携しながら行われている情報モラル教育の実践を紹介し、系統的な学習の推進を図りたい。 研修、実態把握、分析等を引き続き行いながら、児童生徒がより主体的に取り組んだり、個に応じた学びを選択したりできるような授業内容を目指すとともに、それを実現するためのICT環境の整備を図る。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	2-2	所管課	地域振興課
	項目名	子ども地域活動の支援		
	概要	地域における社会教育やコミュニティ活動の拠点である公民館で子どもを対象とした各種事業を実施することにより、様々な体験活動や地域の多年代の交流を通して地域の活性化を図る。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	子ども地域活動の支援		○※
取組状況の総括	<b>【成果】</b> 「ひとづくりまちづくり推進事業」などの公民館の活動を通して子どもを対象とする事業を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業もあったが、開催方法や時期を工夫して子どもを対象とする事業を実施した。			
	<b>【課題・今後の対応】</b> 次世代育成の観点から、地域の拠点としての公民館で様々な世代の住民が集まり、交流を活性化させていく中で、特に地域での「地域の子どもは地域で育てる」という意識の醸成を図る。			
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	コロナ禍の影響で地域活動をするのが難しい状況であったが、各公民館で実施方法や時期を検討し、事業を継続することができた。			
教育委員の 意見・指摘	市長部局へ移管(評価対象外)			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-2 子ども地域活動の支援	主な取組	①子ども地域活動の支援
2 事務事業名	公民館運営事業	所管課	地域振興課
3 事業の概要	地域における社会教育やコミュニティ活動の拠点である公民館で子どもを対象とした各種事業を実施することにより、様々な体験活動や地域の多年代の交流を通して地域の活性化を図る。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 全ての公民館で子どもを対象とした体験活動や多世代が交流する事業を行い、地域の活性化を図る。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> コロナ禍における活動の実施方法や時期を工夫し、可能な限り事業の実施に努めた。		
	<b>【数値目標】</b> 全ての公民館で体験活動や地域交流活動を行う。 29公民館		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 市内29公民館において、「ひとづくり・まちづくり推進事業」を中心に、子どもを対象とする事業を企画・実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業もあったが、開催の方法や時期を工夫して実施した。		
	<b>【成果】</b> 感染防止対策を実施しながら、「ひとづくり・まちづくり推進事業」を中心に29公民館全てで子どもを対象とする事業を実施した。 《ひとづくり・まちづくり推進事業での子ども対象事業》 予定された事業 26事業（13公民館）うち、19事業実施（12公民館）		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 29公民館		
6 課題・今後の対応	次世代育成の観点から、地域の拠点としての公民館で様々な世代の住民が集まり交流を活性化させていく中で、特に地域での「地域の子どもは地域で育てる」という意識の醸成を図る必要がある。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		



## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	2-3	所管課	生涯学習課 市立図書館
	項目名	子ども読書活動の推進		
	概要	<p>子ども読書活動推進にあたっては、児童図書の実充や子どもたちが本に親しむ機会の提供が重要であり、魅力ある本の収集やその情報を発信することにより、子どもたちの読書意欲を向上させるとともに、新規利用者を取り込むための工夫をしていく。</p> <p>子どものころから読書に親しむことは子どもの成長や発達にとっても重要であり、図書館は子どもの読書活動を支える拠点として、児童図書の充実や子どもの発達段階に応じた読書活動の支援に取り組む。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	乳幼児期から本に親しむ機会の創出		○
	②	子ども読書活動推進事業の実施		◎
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b> おはなし会の実施は令和3年度比127%、ブックスタート支援事業への司書の派遣は令和3年度比130%となり、子どもたちの本に親しむ機会は一定程度確保することができた。 また、子ども読書活動推進事業は計画に対し約88%、合計参加者数432人と、新型コロナウイルス感染拡大防止で中止した1件以外は計画通り行事を実施することができた。学校等からの館内見学受入では、生徒からバックヤードをみて感動の声が上がったり、たくさん質問をもらったりと、市立図書館に興味を持ってもらうきっかけとなっている。児童図書の貸出冊数は目標を達成し、コロナ禍前の令和元年度比でも約99%と同水準に戻りつつある。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b> おはなし会などへの新たな参加者を取り込むため、工夫した広報や情報発信に努める。 また、子ども読書活動推進事業においては、講演会、体験学習の受入を継続的に行い、子どもたちがより読書に親しめる環境を創るために、創意工夫した取組を行う。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	A			
評価理由	新型コロナウイルス感染症対策を行いつつも、ほぼ計画通りの取組を行うことができ、また、数値目標も概ね達成したことから、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	館内見学については、バックヤードなどの普段は見ることができないところを見学することで、図書館に興味を持ってもらうことにつながり、非常によい取組である。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-3 子ども読書活動の推進	主な取組	①乳幼児期から本に親しむ 機会の創出
2 事務事業名	ブックスタート支援とおは なし会の実施	所管課	生涯学習課 市立図書館
3 事業の概要	6か月健診時のブックスタート事業に司書を派遣し、読み聞かせや絵本を通じたふれあいの大切さを保護者に伝える。また、図書館において、乳幼児向けの絵本コーナーの充実を図るとともに、ボランティアの協力も得ながらおはなし会を開催する。		
4 目 標	【目標】 ブックスタート事業の支援としての読み聞かせや、健康フェスティバルの際の読み聞かせを実施するとともに、図書館でのおはなし会を開催することで、子どもたちが本に親しむ機会を創る。		
	【前年度からの改善方法】 ホームページや図書館だよりなどを活用し、イベントの周知を工夫することで参加者の増加を図る。		
	【数値目標】 ブックスタート支援事業 20回 おはなし会の開催 60回		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ブックスタート支援事業のおはなし会を13回開催した。また、ボランティアの協力のもと、おはなし会を70回開催した。		
	【成果】 ブックスタート支援事業への司書の派遣については、感染状況を踏まえた所管課からの依頼に基づき13回の出席にとどまったが、ブックスタートのおすすめとともに図書館利用の広報を行うことで、子どもたちの本に親しむ機会を一定程度確保することができた。おはなし会は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、目標の117%となる70回実施した。		
	【数値目標の実績値】 ブックスタート支援事業 13回 おはなし会の開催 70回		
6 課題・今後の対応	新型コロナウイルス感染症対策に努めながら、新たな参加者を取り込むための工夫した広報や情報発信に努める。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-3 子ども読書活動の推進	主な取組	②子ども読書活動推進事業 の実施
2 事務事業名	子ども読書活動推進事業の 実施	所管課	生涯学習課 市立図書館
3 事業の概要	創意工夫した子ども向け行事を開催し、本に親しむ機会を作る。また、 ヤングアダルトコーナーの充実を図るとともに、推薦図書の紹介などによ り中高生の利用促進に努める。		
4 目 標	【目標】 子どもたちが図書館を通じて読書に親しめる環境を創るとともに、広く 広報を行う。		
	【前年度からの改善方法】 より多くの子どもに図書館を利用してもらえるよう、行事の内容や広報 の仕方を工夫する。		
	【数値目標】 児童図書の貸出冊数 192,000冊		
5 取組状況・成果	【取組状況】 児童図書の充実を図るとともに、子ども読書に関する行事を20回開催し た。また、館内見学や利用ガイダンスのため、17団体、561人を受け入れ た。ヤングアダルトコーナーについても、引き続き、図書を充実するとと もに、ホームページでの推薦図書の紹介、YA通信による広報、学校との 連携などにより中高生の利用促進に努めた。  《子ども読書活動推進事業として実施した主な行事》 ○子どもの読書週間行事「読みメンおはなし会とワークショップ」 ○子 ども読書活動推進事業講演会「コロナ禍で見えてきた読み聞かせの格差- 五感・ことば・絵本-」 ○ジュニア司書養成講座 ○夏休み行事「こど もクイズラリー」 ○秋の読書週間行事「よなぼんすごろく」「本の福 袋」 ○クリスマスおはなし会 など		
	【成果】 ほぼ計画通り行事を実施し、学校等の見学もできるだけ受入し、図書館 利用につなげた。児童図書の貸出冊数は目標を達成し、コロナ禍前の水準 に戻りつつある。		
	【数値目標の実績値】 児童図書の貸出冊数 203,914冊		
6 課題・今後の対応	講演会、体験学習の受入を行うなど、子どもたちが読書に親しめる環境 を創るために、創意工夫した取組を行う。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	2-4	所管課	地域振興課
	項目名	公民館運営の充実		
	概要	社会教育を基盤とした地域づくりが期待されており、更なる取り組みの強化のため、事業の活性化を図るとともに、新たな参加者を取り込む工夫を行う。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	広報活動		◎
	②	社会教育講座		○※
	③	体育・文化事業		○※
	④	ひとづくり・まちづくり推進事業		○※
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b>          全ての公民館で各種事業を実施するとともに、事業の企画運営については、各公民館で住民のニーズに合致した事業を企画・実施した。          しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の主な行事（夏祭り、運動会、公民館祭）は中止及び内容を工夫して実施する等の対策が必要だった。          公民館の活動をより分かりやすく発信するため、ホームページのリニューアルを実施した。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b>          各地域で住民のニーズを満たすと同時に地域課題の解決に向けた事業を企画・実施する。また、公民館ホームページをリニューアルしたことにより、公民館からの情報発信をより充実させる取り組みが必要である。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、対策を実施することで可能な事業を実施した。			
教育委員の 意見・指摘	市長部局へ移管（評価対象外）			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-4 公民館運営の充実	主な取組	①広報活動
2 事務事業名	広報活動	所管課	地域振興課
3 事業の概要	「公民館だより」の発行、ホームページの充実により、公民館及び地域の活動について情報提供に努める。		
4 目標	<b>【目標】</b> 全ての公民館で毎月「公民館だより」を発行する。 公民館行事や地域の様子について、ホームページを活用し、情報発信を行う。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 公民館の活動等をより分かりやすく伝えるため、ホームページの改修を行った。		
	<b>【数値目標】</b> 29公民館×12か月の「公民館だより」発行。		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 全ての公民館で毎月「公民館だより」を発行した。 公民館の活動等をより分かりやすく情報発信するため、各公民館のホームページを米子市ホームページ内に移行する改修作業を実施するとともに、公民館職員への研修を実施した。		
	<b>【成果】</b> 公民館ホームページの改修を行うことで、スマートフォン等の各種端末で閲覧しやすくなり、利用者の利便性向上に繋がった。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 「公民館だより」29館×12か月 348部		
6 課題・今後の対応	公民館ホームページのリニューアルにより、公民館からの情報発信をより充実させるとともに、地域活動の様子等について分かりやすく伝える取り組みが必要である。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-4 公民館運営の充実	主な取組	②社会教育講座
2 事務事業名	社会教育講座	所管課	地域振興課
3 事業の概要	地域課題への地区住民の意識を高め、地域社会の発展を図ることを目的とした社会教育講座を開催する。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 全ての公民館で基準開催講座数以上の講座を開催する。 (公民館1館あたり、家庭教育講座1回、人権問題講座1回の計2回を必須とする)		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 社会教育を基盤とした地域づくりを進めるため、地域の実情に合わせて事業を実施できるよう、講座の開催回数の基準を見直した。また、コロナ禍において事業を継続して実施するため、オンライン会議等のシステムを活用した。		
	<b>【数値目標】</b> 29館全館で各2テーマを含む生涯学習講座を開催する。 ①開催回数 58回 (29館×2講座) ②参加人数 1,044人 (昨年の1講座あたり平均参加者数18人×58回)		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> コロナ禍にあっても公民館で様々な地域行事を行うなかで、全ての公民館で基準講座数以上の講座を開催した。オンライン会議システムを活用し部屋を分散するなど、各公民館が工夫を凝らし、多様な内容となった。		
	<b>【成果】</b> 新型コロナウイルス感染症拡大により講座の一部(16講座)を中止したが、感染対策を行い学習講座を提供することができた。 コロナ禍においても地域住民の学びを継続することで、住民が企画する様々なテーマを取り上げ、教養、地域の課題を学習する内容となった。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 29館で必須の2講座を含む生涯学習講座を開催 ①開催回数 417回 (企画433事業 実施417 中止16) ②参加人数 9,418人		
6 課題・今後の対応	参加者の高齢化や固定化が課題となっており、多年代の住民が参加できるよう内容や周知について工夫が必要である。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-4 公民館運営の充実	主な取組	③体育・文化事業
2 事務事業名	体育・文化事業	所管課	地域振興課
3 事業の概要	地域における住民の交流を促進するため、体育及び文化行事を開催する。		
4 目 標	【目標】 住民が主体となり参加する地域行事を活性化させるとともに、地域コミュニティの醸成を図る。		
	【前年度からの改善方法】 コロナ禍において感染防止対策を実施するとともに、開催できる方法を検討しながら、継続して事業を実施する。		
	【数値目標】 全ての公民館で実施。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 全ての公民館で校区民運動会、公民館際、各種スポーツ大会等において住民主体による企画運営を行った。		
	【成果】 新型コロナウイルス感染症の影響により、校区民運動会を実施した公民館は1館にとどまったが、運動会以外のスポーツ行事を計画していた公民館もあり、3公民館は体育行事を実施できた。 公民館祭について、中止とした公民館は2館あったが、他の27館では感染対策を行いながら実施した。体育・文化活動を通して、地域コミュニティの醸成に努めた。		
	【数値目標の実績値】 地区体育大会 実施4館（うち地区運動会 1館） 公民館祭 実施27館		
6 課題・今後の対応	アフターコロナ時代に向けて事業を継続し、多くの地域住民が参加できる形態となるよう工夫する。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-4 公民館運営の充実	主な取組	④ひとづくり・まちづくり 推進事業
2 事務事業名	ひとづくり・まちづくり推 進事業	所管課	地域振興課
3 事業の概要	公民館において地域の環境美化活動、世代間交流事業等を通して、地域のまちづくりにおける取組を実施する。		
4 目 標	【目標】 地域において、住民が主体的に活動を実施し、活力のある豊かで住みよい地域づくりを目指し、地域の人材育成に取り組む。		
	【前年度からの改善方法】 コロナ禍で事業開催が難しい状況だったが、感染対策を実施しながら可能な事業を実施し、地域住民が繋がることのできるよう取り組む。		
	【数値目標】 全ての公民館で実施。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 地域の実情に合わせて、地域づくりの課題の解決や人材育成を行った。 ・まちの環境美化として花植え活動 ・安心安全な地域になるため見守り活動 ・しめ縄、門松づくり等を通して世代間交流 ・子ども支援事業		
	【成果】 地区の夏祭り行事等については、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止や規模縮小とした場合が多かったが、その他の事業では感染防止対策を講じ可能な範囲において実施した。コロナ禍においても住民同士が繋がることで、公民館を拠点とする地域づくりの推進につながった。		
	【数値目標の実績値】 29館全ての公民館で推進事業を実施。		
6 課題・今後の対応	これまで地域で培われてきた実績を生かしながら、ひとづくり、つながりづくりを進める事業のあり方を検討し、地域の人材育成の推進を図る。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		



## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	2-5	所管課	地域振興課
	項目名	公民館の整備		
	概要	公民館施設について、利用者の安全・安心を確保するため維持管理に努めるとともに、老朽化が進む施設の整備を行う。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	公民館施設等整備事業		○
	②	明道公民館整備事業		○
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b>  公民館施設について、改修工事を実施するとともに、緊急性の高いものから修繕を実施し、利用者の安全・安心につながるよう維持管理に努めた。次年度については、各公民館毎に緊急度を含めた修繕要望を作成し、公民館全体の優先順位を決めた上で対応にあたることとした。  明道公民館整備については、南保育園統合移転計画の進捗と合わせ、保育園跡地を候補地とする地域の意向を確認した。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b>  明道公民館整備事業方針については、南保育園統合計画の進捗状況に伴い、その変化に応じた対応をすることとなる。  公民館全体の施設整備については、米子市公共施設総合管理計画の中で検討を進める必要がある。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	B			
評価理由	公民館施設等整備事業は予定どおり実施した。明道公民館の整備方針決定には至っていないが、南保育園統合計画の進捗及び地域の意向に沿ったものであることから、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	市長部局へ移管(評価対象外)			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-5 公民館の整備	主な取組	①公民館施設等整備事業
2 事務事業名	公民館施設等整備事業	所管課	地域振興課
3 事業の概要	利用者が快適で安全に利用できる公民館施設の機能維持として必要な改修を緊急性の高いものから実施する。		
4 目 標	【目標】 安心・安全・快適に施設を利用するために必要な改修を緊急性の高いものから実施する。		
	【前年度からの改善方法】 個別施設計画を踏まえ、各館から聞き取りした状況の精査を行い、利用者の利便性と安全性をふまえて優先度を作成して改修を実施する。		
	【数値目標】 実施率 100%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 安心・安全・快適に利用できる施設を目指し、必要な改修等を実施した。また、29公民館全てでWi-Fi環境の整備を行い利便性の向上を図った。		
	【成果】 必要な改修等を実施し、施設の安全安心を図ることができた。Wi-Fi環境の整備を実施したことにより、リモートで講座の開催等が可能となる環境が整った。 《Wi-Fi整備》全29館 《空調改修工事》明道（学習室他）、義方（和室他）、大篠津（事務室他）、淀江（研修室） 《非常階段設置工事》義方 《玄関建具改修工事》永江、梶 《その他工事》義方（軒裏改修）、大篠津（自転車車庫改修）、彦名（フェンス改修）、大和（前庭証明設置）		
	【数値目標の実績値】 実施率 100%		
6 課題・今後の対応	施設全体の老朽化が進む中で、施設の状況に応じた修繕工事の対応を行っている状況である。建築から相当の年数が経過しており、より詳細な管理計画を策定することが必要。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-5 公民館の整備	主な取組	②明道公民館整備事業
2 事務事業名	明道公民館整備事業	所管課	地域振興課
3 事業の概要	老朽化が進む明道公民館の整備方針を策定する。		
4 目標	【目標】 明道公民館について、地域の意向に沿った整備方針を決定するとともに、方針の実現に向けた準備を行う。		
	【前年度からの改善方法】 明道公民館について、市立保育園統合計画の動向に合わせて、地元住民との認識の共有に務める。		
	【数値目標】 —		
5 取組状況・成果	【取組状況】 明道公民館整備については、南保育園統合移転計画の進捗と合わせ、保育園跡地を候補地とする地域の意向を確認した。		
	【成果】 市立保育園統合計画を進めることも政策課と連携し、住民に対する説明会などで認識の共有を図った。		
	【数値目標の実績値】 —		
6 課題・今後の対応	明道公民館の整備について、市立保育園統合計画の進捗状況に注視しながら、適切に事業を進める。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	2-6	所管課	生涯学習課 市立図書館
	項目名	生活に役立つ図書の充実		
	概要	蔵書数や貸出冊数は年々増加しており利用者の満足度は向上してきているが、今後は市民のニーズを的確に把握し、生活に役立つ実用書などの収集や更なる職員の選書能力やレファレンス力の向上を図る必要がある。地域の「知の拠点」として、また「情報センター」として、快適で利用しやすく開かれた図書館を目指し、市民の生活に役立つ資料の充実を図る。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	生活充実図書整備事業		◎
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b> 蔵書数は令和3年度比101%、令和4年度目標340,000冊に対し、350,246冊であり、目標は達成した。また、主催・共催事業は計画したうち約99%を実施することができた。個人貸出冊数や個人貸出利用人数は、コロナ禍前の令和元年度比で約92%と、ほぼ同水準まで戻りつつある。テーマ展示は、各フロア展示(1階)に加え、特別展示としてギャラリー(2階)での特設文庫開設展示、他県図書館との交換展示を行うなど内容の充実を図った。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b> アンケートやリクエストをもとに市民ニーズを的確に把握し工夫した取り組みを進めるとともに、職員の選書能力の向上を図る。なお、今後の館内展示については、展示場所等はほぼ例年どおりとしつつ、期間を延長したり、年間を通して実施しながら内容の充実を図る。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	A			
評価理由	数値目標を達成し、また、新型コロナウイルス感染症対策を行いつつも、主催・共催事業をほぼ計画通りに実施することができたことから、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	職員の選書能力の向上を図り、引き続き時代に合った選書に努めてほしい。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-6 生活に役立つ図書の充実	主な取組	①生活充実図書整備事業
2 事務事業名	生活充実図書整備事業	所管課	生涯学習課 市立図書館
3 事業の概要	健康、医療、介護、年金、法律、ビジネスなど生活に必要な情報を市民が利用しやすいよう、コーナーや資料の充実を図る。 また、関係機関との連携により、各種相談会や関連講座を開催するなど、新規の利用者の掘り起こしに努める。		
4 目 標	【目標】 地域の「知の拠点」、「情報センター」として機能するために、蔵書数の増加を図るとともに、一般教養書の充実に努める。また、健康情報・法律情報・ビジネス支援など生活に役立つ図書をテーマ展示することにより、利用者の掘り起こしを図る。		
	【前年度からの改善方法】 市民ニーズの把握に努め、関係機関との連携により図書館利用の拡大を図るとともに、社会生活に役立つ良質な図書の購入に努める。		
	【数値目標】 蔵書数 340,000冊		
5 取組状況・成果	【取組状況】 蔵書数の増加を図るとともに、生活に役立つ図書のテーマ展示や、各種ビジネス相談会や講演会などを開催した。		
	【成果】 蔵書数の目標は達成した。また、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、主催・共催事業をほぼ実施することができた。個人貸出冊数や個人貸出利用人数は、コロナ禍前の水準まで戻りつつある。テーマ展示は172回実施し、各フロア展示（1階）に加え、特別展示としてギャラリー（2階）での特設文庫開設展示、他県図書館との交換展示を行うなど内容の充実を図った。		
	【数値目標の実績値】 蔵書数 350,246冊		
6 課題・今後の対応	引き続き、市民ニーズを的確に把握し工夫した取り組みを進めるとともに、職員の選書能力の向上を図る。なお、今後の館内展示については、展示場所等はほぼ例年どおりとしつつ、期間を延長したり、年間を通して実施しながら内容の充実を図る。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	3-1	所管課	学校給食課
	項目名	学校給食における地産地消の推進		
	概要	<p>学校給食用食材の県産品利用率は高くなってきたが、児童生徒の地元の食べ物に対する認識はまだ低く、ふるさとに愛着をもつまでに至っていない。</p> <p>そのため、食に関する指導を充実させるとともに、県産品利用の更なる推進、地場産物を活用した取組を引き続き充実させることにより、児童生徒のふるさとに対する誇りや愛着、食に関する感謝の気持ちをより一層育むよう努める。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	学校給食用食材の県産品利用の推進と充実		○
	③	児童生徒から募集した地元食材を使用した献立の実施		◎
	②	生産者と児童生徒の交流の実施		△※
	④	郷土料理等の積極的な導入と継承		◎
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b></p> <p>地場産物や郷土料理を取り入れた特色ある給食を積極的に提供することにより、児童生徒に地域の自然や食文化について伝えることができた。</p> <p>地元食材を取入れた献立募集の応募件数の推移や学校給食アンケートの結果から、児童生徒の地元の食べ物に対する認識は高くなってきているように感じられる。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b></p> <p>引き続き、県産品利用の更なる推進、地場産物を活用した本市の特色を活かした取組を充実させることにより、児童生徒のふるさとに対する誇りや愛着、食に関する感謝の気持ちをより一層育むよう努めていく必要がある。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	<p>主な取組の各事務事業における数値目標の達成状況と新型コロナウイルス感染症の影響を勘案し、この評価とした。</p> <p>生産者と児童生徒の交流事業は、コロナ禍の影響を受け、数値目標を達成できなかったが、リモートでの交流を実施するなどの工夫を行った。</p>			
教育委員の 意見・指摘	<p>地元食材を取り入れた献立募集において、市長賞などの新たな賞を創設するなど積極的な取組が、児童生徒の興味を引きつけ地元食材への関心の高まりにつながっている。ワールドカップ給食などタイムリーな国際交流給食を実施することで、世界に目を向けると同時に日本の伝統やふるさとの食を見直すきっかけづくりとなったことは評価できる。</p>			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-1 学校給食における地産地消 の推進	主な取組	①学校給食用食材の県産品 利用の推進と充実
2 事務事業名	学校給食用食材の県産品利 用の推進と充実	所管課	学校給食課
3 事業の概要	地場産物の使用割合を高めるため、地元J Aなど関係団体との連携と情報共有を図る。		
4 目 標	<b>【目標】</b> いきいきとした豊かな心や郷土愛を育むことを目的として、米子市や鳥取県の食材を取り入れた料理や、米子市に伝わる郷土料理など、特色のある給食を提供する。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 地元産食材の安定的な納入に向けて、関係団体等との情報交換を引き続き行う。また、郷土料理や地場産物を取り入れた特色ある給食献立の実施に継続して取り組んでいく。		
	<b>【数値目標】</b> 地産地消率(県産品使用比率) : 前年度並み(年平均) ※令和3年度 県産品使用比率 68%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 毎月19日の食育の日「いきいきこめっこデー」を中心に地元産の食材をより多く取り入れた料理や、米子市に伝わる郷土料理など特色ある給食を提供した。 J A鳥取西部に翌月の野菜使用量について情報提供するとともに、関係団体と地産地消等について意見交換を行うなど情報共有を図った。		
	<b>【成果】</b> 年間の県産品使用比率は昨年度を下回ったが、地場産物や郷土料理を取り入れた特色ある給食を積極的に提供し、児童生徒に地域の自然や食文化について伝えることができた。 ※ いきいきこめっこデーの県産品使用比率 64%~100%		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 令和4年度 県産品使用比率(年平均) 62%		
6 課題・今後の対応	市農林課などの庁内関係課やJ A鳥取西部などの関係団体との連携と情報共有を一層進めることにより、地場産物の更なる使用拡大を図るとともに、地場産物や郷土料理を取り入れた特色ある給食献立の実施に継続して取り組み、児童生徒に食やふるさとの魅力を引き続き伝えていく必要がある。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-1 学校給食における地産地消 の推進	主な取組	②生産者と児童生徒の交流 の実施
2 事務事業名	生産者と児童生徒の交流の 実施	所管課	学校給食課
3 事業の概要	生産者の思いを伝え、感謝の気持ちを育むため、生産者との交流事業を 実施する。		
4 目 標	【目標】 児童生徒と生産者との交流事業を実施する。		
	【前年度からの改善方法】 コロナ禍で学校への外部からの立入が困難な中、状況を理解の上で協力 できる生産者に参加していただき事業を実施するとともに、リモートによ る実施などICT機器を活用した生産者と子ども達を広くつなぐ交流方法 を研究、実施していく。		
	【数値目標】 交流事業 10回以上 うち リモート実施回数 3回以上		
5 取組状況・成果	【取組状況】 コロナ禍で学校への外部からの立入が困難な中、状況を理解の上で協力 できる生産者等に参加していただき対面で事業を実施することができた。 また、ICT機器を活用したリモートでの交流を実施した。		
	【成果】 交流事業の実施回数は昨年度より増えたものの、コロナ禍で目標回数に は及ばなかった。しかし、栄養教諭等によるT・T授業(ティーム・ ティーチング授業)の中でしっかりと生産者の思いを伝えるなどの工夫を 行い、取組内容の充実を図ることができた。		
	【数値目標の実績値】 交流事業(講話) 7回 ・野菜生産者 4回 ・牛乳、酪農関係者 3回(うちリモート実施 1回)		
6 課題・今後の対応	生産者に取材し、給食だよりで特集号を発行したり、ICT機器などを 活用して生産者と児童生徒を広くつなぐなど、新たな交流方法を研究する 必要がある。		
7 個別事業評価	△ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		



## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-1 学校給食における地産地消 の推進	主な取組	③児童生徒から募集した地 元食材を使用した献立の実 施
2 事務事業名	児童生徒から募集した地元 食材を使用した献立の実施	所管課	学校給食課
3 事業の概要	児童生徒から地元食材を取り入れた献立の募集を行い、全国学校給食週 間等に提供する。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 小学4年生から中学3年生までの児童生徒を対象に、地元食材を取り入 れた献立の募集を行い、地元への愛着が特に伝わる作品を1月の全国学校 給食週間を中心に給食として提供することにより、地元食材に対する興味 や関心を持つ児童生徒を増やしていく。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 応募作品への市長賞、教育長賞の創設等、実施方法を見直し、地元食材 に対する興味や関心を持つ児童生徒を更に増やすように努めた。		
	<b>【数値目標】</b> 応募数 前年度以上 ※令和3年度応募数 1,516点		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 「いきいきこめっこプロジェクト」の一環として、児童生徒に地元食材 を使った献立を募集し、そのうち53点を全国学校給食週間を中心に実際の 給食として提供することにより、ふるさとの魅力を知り、郷土愛を育む取 組を行った。 また、応募作品への市長賞、教育長賞の創設等、実施方法の見直しを 行ったほか、応募した児童生徒全員に、しおり（裏面に地元食材の写真を 掲載）を配布し、次年度の応募につながるように努めた。		
	<b>【成果】</b> 児童生徒の献立応募数が毎年増加していることから、地元食材について の関心が高まり、児童生徒の故郷に対する誇りや愛着、食に対する感謝の 気持ちが育ってきているように思われる。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 応募数 令和4年度 1,522点		
6 課題・今後の対応	学校間の関心の高さに差があり、応募献立数や料理内容に差が出てい る。今後も料理内容の充実を図るための工夫と参加していない学校への啓 発に取組むとともに、ねらいを明確にし関係者に啓発していく必要がある。 また、応募作品への部門賞の創設等、実施方法を見直し、地元食材に対 する興味や関心を持つ児童生徒を更に増やす取組にしていく必要がある。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-1 学校給食における地産地消 の推進	主な取組	④郷土料理等の積極的な導 入と継承
2 事務事業名	郷土料理等の積極的な導入 と継承	所管課	学校給食課
3 事業の概要	ふるさとへの愛着や、地域の自然、文化、産業などに関する理解を深めるため、地域の食材を使用した献立や郷土料理等を積極的に導入し、ふるさと米子の食や魅力を伝える。		
4 目 標	<b>【目標】</b> ふるさとに伝わる伝統料理や郷土料理を計画的に献立に取り入れるとともに、その献立を活用した食に関する指導を実施することにより、児童生徒のふるさとへの愛着を養う。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 毎月1回以上郷土料理等を計画的に献立に取り入れることができるよう「献立年間計画」の見直しを図った。郷土料理等の実施日には、料理の由来、歴史などを掲示などで児童生徒、教職員に発信することにより、米子の食や魅力への興味関心を高める。 また、国際交流給食を積極的に実施することで、改めて、ふるさとの食の魅力を見直す機会を増やす。		
	<b>【数値目標】</b> 郷土料理・行事食 実施回数 12回 国際交流給食 実施回数 3回 特別献立啓発ポスター 作成・掲示 15回		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 郷土料理等を献立年間計画に取り入れ、計画的に実施した。また、それにあわせて、掲示ポスターを作成し、各学校の配膳室等に掲示するなど、児童生徒の郷土料理等への興味関心が高まるよう努めた。 市国際交流室と連携し、国際交流給食に取り組み、児童生徒がふるさとの食を見直す契機となるよう努めた。		
	<b>【成果】</b> 献立年間計画に従って、計画的に毎月献立に取り入れることができた。 また、学校給食アンケートの結果や、地元食材を使った料理の応募作品の中に郷土料理の作品があるなど、児童生徒のふるさとの食べ物や、郷土料理への関心は高まりつつある。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 郷土料理・行事食 実施回数 13回 国際交流給食 実施回数 3回 特別献立啓発ポスター 作成・掲示 16回		
6 課題・今後の対応	献立を生きた教材として指導に活用しているが、児童生徒の郷土料理への理解関心に十分につながっているとは言えない状況である。今後は情報発信方法を研究し、児童生徒の郷土料理等への興味・関心がより高まる工夫を行う。 また、コロナ禍で開催できなかった料理教室を実施し、児童生徒が「楽しみながら」地場産物やふるさとの魅力を学ぶ場を設定する。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	3-2	所管課	生涯学習課
	項目名	生涯学習活動の推進		
	概要	<p>市民の生涯学習意欲に応えるため、関心の高い内容を中心に学習講座を提供する。</p> <p>また、本市で生まれ育った子どもたちの20歳の門出を祝うとともに、社会人としての責任の自覚や郷土への誇りと愛着を醸成するため、式典を開催する。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	米子人生大学の開催		△※
	②	よなごアカデミーの開催		△
	③	二十歳を祝う会の開催		△
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b></p> <p>市民講座では、2講座の動画配信を実施し、2講座合わせて延べ387回の視聴があった。</p> <p>当日オンラインにより参加できる講座を1講座開催し、市外の方など2名の参加があった。</p> <p>開催日を土曜日としたことで、受講者延べ244人のうち、初めて参加された方が延べ25名程度あった。</p> <p>よなごアカデミーでは、子宮頸がんワクチンの効果を専門の医師から詳しく聞き、正しい知識を提供することができ、理解の醸成を図った。満足度は75%だった。</p> <p>二十歳を祝う会では、新たに名称を決定し、1月3日に1,008人の参加者を迎え開催できた。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b></p> <p>市民講座では、様々な学びの体制整備、市民ニーズやひとづくり・まちづくりにつながるテーマ選定に取り組んでいく必要がある。</p> <p>よなごアカデミーでは、専門的な学びを提供する講座としているが、市民のニーズを反映できるように把握に務める。</p> <p>市民講座、よなごアカデミーともに、より多くの方に届くように周知期間や広報に工夫が必要と考える。</p> <p>二十歳を祝う会では、実行委員の募集期間を早め、周知を積極的に行う。</p> <p>成人式に対する意識調査を高校生等を実施し、今後のあり方を検討していく必要がある。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	C ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	<p>新しく受講される方もあったが、市民講座等の受講者数が低下している。</p> <p>二十歳を祝う会の実行委員のなり手がなく、募集の方法や周知の方法の検討が足りなかった。</p>			
教育委員の 意見・指摘	<p>市民講座について、幅広い内容のテーマ選定や体験を伴うものとするなど、魅力の差別化を図る必要がある。</p> <p>二十歳を祝う会で作成したスライドについて、いろいろな場面で使用し、有効活用を図ってほしい。</p>			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-2 生涯学習活動の推進	主な取組	①米子人生大学の開催
2 事務事業名	社会人向け講座開催事業	所管課	生涯学習課
3 事業の概要	市民一般を対象に、生涯を通して健康で、生きがいのある人生に資するよう今日的課題に対応した米子人生大学を開催する。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 満足度の高い学習講座を目指して開催しているが、参加者の固定化や高齢化が進み、連続して受講する方の減少が進んでいる。幅広い年代の方が参加しやすい講座の開催を目指す。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 少子高齢化社会でのひとづくり・まちづくりに資する新たな社会教育講座に取り組むため、「ひとづくり」をテーマに講座の内容を企画し、社会教育委員等と意見交換をしながら実施した		
	<b>【数値目標】</b> 実施講座数 10講座 受講者数(延べ人数) 700人(1講座あたり70人)		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 幅広い年代の方が参加しやすくなるように、講座開催日を土曜日に変更した。コミュニティ・スクールやフレイル予防など今日的課題や地域課題も学べる内容を取り入れた。「誰でも、いつでも、どこでも学べる生涯学習の実現」に向けて、当日参加できなかった方も学べるように動画配信を2講座実施した。当日、オンラインでも参加できる講座を1講座実施した。		
	<b>【成果】</b> 講座の動画配信を2講座実施し、2講座合わせて延べ387回の視聴があった。 当日オンラインでも参加できる講座を1講座開催し、市外の方など2名の参加があった。 開催日を土曜日としたこともあり、初めて参加された方が延べ25名程度あった。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 実施講座数 6回(うち1回は集合開催を中止した。) 後日配信した講座 2回(視聴数延べ387視聴) 受講者数(延べ人数) 244人(1講座あたり約50人)		
6 課題・今後の対応	誰でも、いつでも、どこでも学べる生涯学習の実現に向けて、配信やオンライン参加など様々な学びの体制を整備していく必要がある。市民ニーズやひとづくり・まちづくりにつながるテーマ選定に取り組んでいく必要がある。		
7 個別事業評価	△ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-2 生涯学習活動の推進	主な取組	②よなごアカデミーの開催
2 事務事業名	社会人向け講座開催事業	所管課	生涯学習課
3 事業の概要	専門性のある内容の講座として、よなごアカデミーを開催する。土曜日、日曜日に開催することでより多くの方の受講機会の拡大を図る。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 全2講座、各2回の構成でよなごアカデミーを開催する。座学だけでなく、現地学習や実習などをバランスよく開催し、学習効果を高める。また、50歳以下の市民が関心のある題材をテーマにした講座についても開催を検討していく。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 新型コロナウイルス感染症拡大状況となった場合でも講座の開催ができる体制の構築（オンラインでの講座開催）や市民が参加しやすい講座への見直しが必要。		
	<b>【数値目標】</b> 参加人数（延べ人数）60人（2コース開催 1コース当たり30人）		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 令和4年度から子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が行われることに伴い、4月9日の子宮の日に鳥取大学と連携し、市民向けにワクチンへの理解を促す講座を開催した。医療関係者向け及び一般向けの2部制として講演会を実施した。 会場での受講が難し方に対応するため、事前申し込み者へ、YouTube配信による受講も実施した。		
	<b>【成果】</b> 子宮頸がんワクチンの効果を専門の医師から詳しく話を聞き、正しい知識を提供することができた。満足度は75%だった。（17回答中満足、やや満足を選択した者が13回答）		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 子宮頸がんワクチンのコースのみ開催 医療関係者向けの部参加者 会場受講者12名、YouTube配信による受講者9名 一般向けの部参加者 会場受講者14名、YouTube配信による受講者13名		
6 課題・今後の対応	専門的な学びを提供する講座としているが、講座のテーマ選定について市民のニーズを反映できるように把握に務める。多くの方に届くように周知期間や広報に工夫が必要と考える。		
7 個別事業評価	△		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-2 生涯学習活動の推進	主な取組	③二十歳を祝う会の開催
2 事務事業名	二十歳を祝う会の企画・開催	所管課	生涯学習課
3 事業の概要	本市で生まれ育った子どもたちの成人の門出を祝うと共に、社会人としての責任感や郷土への誇りと愛着を醸成するよう、心に残る会を開催する。		
4 目標	<b>【目標】</b> 20歳の方を対象に開催する式の名称を決定する。 社会に羽ばたく青年に責任と義務、自覚につながるように対象者を中心とした実行委員会を組織し、式の企画運営を行う。 コロナ禍での開催となるため、感染防止対策について十分に配慮した開催方法により式を挙げる。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> コロナ禍での開催となるため、感染リスクを最小限にする工夫が必要となる。そのため、受付時の体温チェック、手指消毒、接触を避けるなどの対策をした。		
	<b>【数値目標】</b> 式の名称を早急に決定する。 対象者による実行委員会を組織し、実行委員による企画・運営をする。 コロナ禍での開催となるため、参加者が安心して参加できる式の開催を目指す。		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 成人年齢引き下げに伴い、令和4年度以降の成人式の名称について協議し、「米子市二十歳を祝う会」に決定した。(10月) 二十歳の門出を祝うとともに、社会人としての責任感や郷土への誇りと愛着の醸成を目的に、参加事前申し込み時に「米子の好きどころ」、「二十歳の誓い」について、任意で記入してもらった。その内容をもとに、スライドを作成し、当日上映を行った。なお、スライド作成は、米子西高等学校2年生の探求学習で成人式について関わった生徒に協力してもらった。		
	<b>【成果】</b> 式の名称が決まり、1,008人の参加者を迎え開催できた。 「米子の好きどころ」、「二十歳の誓い」について、事前申込1,009件中542件の記入があり、ふるさとへの思いや今後の自分について考える時間となり、社会人としての自覚やふるさとへの愛着の醸成を図ることにつながった。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 成人式の新たな名称を「米子市二十歳を祝う会」に決定した。 対象者：1,376人 参加者：1,008人 記念感想文応募数：41作品 実行委員に応募される方がおらず、実行委員会を組織できなかった。		
6 課題・今後の対応	実行委員の募集期間を早め、周知を積極的に行う。 成人年齢の引き下げにより、成人式に対する意識調査を高校生等を実施し、今後の開催方針の検討を始める必要がある。		
7 個別事業評価	△		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	3-3	所管課	文化振興課
	項目名	歴史的文化遺産の保存と活用		
	概要	<p>過疎化・少子高齢化などによる社会変化により、貴重な文化財が失われないように、その継承に取り組むことが喫緊の課題となっている。また、文化財の適切な整備や維持管理を行いつつ、様々な年齢層に文化財の魅力、価値、重要性を認識してもらう必要がある。そのために、文化財保護の中長期的な基本方針と短期的な事業計画を定めた「文化財保存活用地域計画」を策定し、文化財の保存整備と活用を図っていく。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	文化財保存活用地域計画の策定		◎
	②	文化財の保存整備の推進		○※
	③	文化財の活用の展開		○
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b> 文化財の保存及び活用のため、文化財保存活用地域計画の基礎となる米子市の歴史文化遺産を再度リストアップし、米子市文化財保存活用計画検討協議会の議論を踏まえて、同地域計画の原案を作成した。 文化財の保存整備では、国史跡米子城跡の本格的な整備に着手し、尾高城跡の国史跡指定に向けて文化庁と協議を行っている。また、文化財の活用では、米子城跡の石垣ライトアップや現地ウォークを始め、公民館や埋蔵文化財センターで歴史講座等を実施し、文化財の魅力アップにつなげている。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b> 米子城跡の保存整備では、整備事業のスケジュールに遅れが生じているため、適切な体制整備と進捗管理を行っていく必要がある。また、整備計画を広く市民に知ってもらうための周知に努めたい。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	各事業における取組内容と数値目標の達成状況を勘案し、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	文化財の指定・登録が、学校と連携して、ふるさと教育につながっていくような取組を行ってほしい。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-3 歴史的文化遺産の保存と活用	主な取組	①文化財保存活用地域計画の策定
2 事務事業名	文化財等管理事業	所管課	文化振興課
3 事業の概要	今後の文化財の保存と活用に取り組む上で必要である「文化財保存活用地域計画」を策定し、歴史的文化遺産の保存と活用を図っていく。		
4 目標	<b>【目標】</b> 行政や有識者等で組織する米子市文化財保存活用地域計画検討協議会での協議に基づき、令和4年度中に地域計画の原案を作成する。(本計画は令和5年度策定予定)		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 地域計画の基礎とするために集成した歴史文化遺産(文化財)リスト候補物件の情報に精粗があり、かつ公民館地域単位でのリストに重複して広域に分布する民俗文化財等があったため、関係資料をチェックして精査する一方、必要に応じて現地調査により確認する。		
	<b>【数値目標】</b> 米子市歴史文化遺産リストに登録する未指定文化財(既に把握している埋蔵文化財を除く。)のリストアップ 1,000件		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> ・米子市文化財保存活用地域計画検討協議会を2回開催し、地域計画の内容を多角的に検討した。 ・既存の文化財調査等を集約するとともに、公民館等の協力を得て、地域で把握している文化財等について情報を収集して「米子市歴史文化遺産リスト」を検討した。		
	<b>【成果】</b> ・米子市文化財保存活用地域計画検討協議会での議論を踏まえて、「米子市の歴史文化の特徴」「歴史文化遺産の保存と活用に関する課題・方針」「歴史文化遺産・関連文化財群・文化財保存活用区域の保存・活用に関する措置」などからなる地域計画の原案を作成した。 ・令和5年3月時点での「米子市歴史文化遺産リスト」を作成した。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 米子市歴史文化遺産リストに登録する未指定文化財のリストアップ 1,156件		
6 課題・今後の対応	パブリックコメントの意見を反映させた文化財保存活用地域計画を文化庁に提出して国の認定を受け、認定された計画について周知を図る。		
7 個別事業評価	◎		



## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-3 歴史的文化遺産の保存と活用	主な取組	②文化財の保存整備の推進
2 事務事業名	史跡米子城跡保存整備事業等	所管課	文化振興課
3 事業の概要	米子城跡や尾高城跡等の指定文化財の保存整備に取り組むとともに、地域に眠る未指定を含めた文化財を幅広く掌握し、現状把握を行い、その継承に取り組む。		
4 目標	<b>【目標】</b> 米子城跡の登城路整備工事、三の丸整備を実施し、尾高城跡の本丸・二の丸の遺構調査を基にした報告書をまとめて国史跡指定に向けて文化庁と協議を行う。また、未指定の文化財の調査を進め、新たな市指定文化財の登録を行うことで、文化財の保護に努める。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 米子城跡の史跡整備を本格的に実施していくため、石垣修復のカルテを作成することで、本事業の具体的な整備を推進していく。		
	<b>【数値目標】</b> 新たな指定文化財の登録 1点以上		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 1. 史跡米子城跡については、登城路整備、三の丸広場整備設計、桁形石垣修理基本設計、石垣カルテ作成、案内看板設置、支障木伐採、遺構確認発掘調査を実施した。また、史跡青木遺跡では法面崩落個所の測量・調査、史跡福市遺跡では日焼山地区の法面崩落個所の測量設計・調査を実施した。 2. 市内遺跡及び尾高城跡の発掘調査事業を実施した。また、尾高城跡の国史跡指定に向けての文化庁協議を行った。 3. D51形蒸気機関車（有形文化財）、旧海軍美保航空隊飛行機用掩体（史跡）、古曳盤谷奉納龍之図天井画（有形文化財）を新たに市指定文化財として新規指定した。 4. 全国遺跡環境整備会議を開催した。		
	<b>【成果】</b> 1. 史跡整備では、米子城跡の整備を本格的にスタートすることができた。また、米子高専と連携して案内看板（多言語解説等）を作成し、米子城跡内7箇所に設置したことで、来城者への適切な案内や周知を図ることができた。 2. 尾高城跡では、発掘調査を基に報告書を刊行し、国史跡指定に向けて前進を図ることができた。 3. 市指定文化財を新たに指定したことで、重要な文化財の保護を図ることができた。 4. 全国遺跡環境整備会議では、全国に本市の史跡の周知を図り、情報交換等を通じて遺跡の整備を円滑に行うための情報収集ができた。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 新たな指定文化財の登録 3点		
6 課題・今後の対応	新たな指定文化財の登録に関しては、目標値を上回ることができた。 新型コロナウイルス感染症などの影響により、史跡米子城跡の登城路整備工事が遅れ、年度内に整備工事を完了することができなかった。今後は、より詳細な年次計画を立て、工事関係部署と連携したスケジュール管理を行う。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-3 歴史的文化遺産の保存と活用	主な取組	③文化財の活用の展開
2 事務事業名	埋蔵文化財保存・活用事業	所管課	文化振興課
3 事業の概要	学校教育、生涯学習など、新たな切り口による文化財に触れる機会の創出や新たなメニューを提供し、活用の事業展開に活かす。また、企画展、講演会、講座などを実施する。		
4 目 標	【目標】 絶景の城PR、石垣ライトアップ、現地ウォークなどの各種事業を実施し、市内外に向けて積極的に情報発信を行う。公民館等の講座を実施し、文化財への理解が深まるように努める。		
	【前年度からの改善方法】 米子城跡について、絶景の城のPR、石垣ライトアップに加え、新たにダイヤモンド大山のPRを行う。		
	【数値目標】 常設展示施設以外での企画展及び歴史講座の開催 年間5回以上		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・イオンモール日吉津及び米子市立山陰歴史館で米子城展を開催した。 ・石垣ライトアップ(年2回)、ダイヤモンド大山観望会(2回)を実施した。 ・公民館等で歴史講座を開催した。 ・米子城跡について、著名人を活用したPR動画及び植生マップを作成した。		
	【成果】 文化財の活用では、埋蔵文化財センター等と連携を図り、企画展や歴史講座等を通じて文化財の魅力や重要性を幅広い世代にPRすることができた。また、ダイヤモンド大山は、マスコミなどで大きく取り上げられ、広く周知された。		
	【数値目標の実績値】 企画展示の開催 1回 歴史講座及び現地ウォークの開催 29回		
6 課題・今後の対応	イベントの告知については、市報以外にもSNS等を積極的に使用し、周知を図る。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	3-4	所管課	生涯学習課 こども政策課 学校教育課
	項目名	学びあう地域づくりの支援		
	概要	子どもたちを取り巻く環境の著しい変化に伴い、学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校の努力だけで解決するには限界がある。そこで、米子市版コミュニティ・スクールの導入を進めるとともに、目指す子ども像の実現に向けて地域の様々な団体や住民がゆるやかにつながり、地域学校協働活動に取り組む。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	地域とともにある学校づくり		○
	②	地域学校協働活動の推進		○※
	③	地域学校協働活動推進員の配置		◎
取組状況の総括	【成果】 東山中学校区及び弓ヶ浜中学校区の学校（2中学校、4小学校）において、学校運営協議会を設置し、学校と地域と一緒に子どもたちの成長を支える取り組みをスタートさせることができた。令和4年度末で、コミュニティ・スクールの導入済の学校が4中学校区（4中学校、8小学校）に増えた。 運営協議会委員、推進員、教員を対象にコミュニティ・スクールについて、理解を深めてもらう研修会を2回実施した。 地域の人材把握が難しい教員に代わり、学校に配置している地域学校協働活動推進員が学校と地域のつなぎ役を担い、教員の負担軽減を図っている。 地域学校協働活動推進員同士の意見交換会や研修会を実施し、活動の推進について支援を行った。			
	【課題・今後の対応】 今後、新型コロナウイルスの感染症の分類が5類になることで活動が活発化すると考えられるが、引き続き感染防止策を講じながら、安心安全な形で事業を実施していく必要がある。 全市におけるコミュニティ・スクールの導入に向けた準備を進め、導入された小中学校には地域学校協働活動推進員を配置していく。 地域学校協働活動のさらなる推進のために地域人材の確保が課題である。			
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	市の計画に沿って、コミュニティ・スクールの導入を進めた。導入校に地域学校協働活動推進員を配置し、地域と学校をつなぐ役割を担い、教員の負担感の軽減につながる取組に努めた。			
教育委員の 意見・指摘	コミュニティ・スクールについて、市民に向けて、より一層の周知を行ってほしい。地域学校協働活動推進員の役割が見えにくいので、フォローアップを充実させてほしい。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-4 学びあう地域づくりの支援	主な取組	①地域とともにある学校づくり
2 事務事業名	コミュニティ・スクール推進事業	所管課	生涯学習課 学校教育課
3 事業の概要	地域住民等が学校運営に参画し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、米子市版コミュニティ・スクール導入を推進する。 (小・中学校9年間の一貫した教育の実現に向けた、学校と家庭、地域住民による熟議の場の設定)		
4 目 標	【目標】 新たに、東山中学校区、弓ヶ浜中学校区の学校(2中学校・4小学校)において導入するため、準備会を設置し、年度内に学校運営協議会を設置する。		
	【前年度からの改善方法】 学校運営協議会の設置に向け、準備会で協議を重ねる中で、協議がスムーズに進むための支援を行う。		
	【数値目標】 東山中学校区、弓ヶ浜中学校区の学校(2中学校・4小学校)に令和5年1月1日付けで学校運営協議会を設置する。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 東山中学校区及び弓ヶ浜中学校区の6学校に準備会委員会を立ち上げ、委員28名を委嘱した。コミュニティ・スクールについての仕組みや理解を深めてもらうための研修会を2回実施した。 準備会では「目指す子ども像」、「学校運営協議会委員の構成・人選」、「地域学校協働活動推進員の人選」等の協議を重ね、コミュニティ・スクール導入に向け支援を行った。		
	【成果】 東山中学校区及び弓ヶ浜中学校区の学校(2中学校、4小学校)に学校運営協議会を設置した。学校と地域と一緒に子どもたちの成長を支える取組をスタートさせることができた。		
	【数値目標の実績値】 令和5年1月1日に東山中学校区、弓ヶ浜中学校区の学校(2中学校・4小学校)に学校運営協議会を設置した。		
6 課題・今後の対応	全市的なコミュニティ・スクール導入や活動の充実に向け、学校関係者や地域住民への周知や理解を広げていくとともに、活動等の推進、活性化に向けた支援に取り組む必要がある。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-4 学びあう地域づくりの支援	主な取組	②地域学校協働活動の推進
2 事務事業名	学校支援ボランティア コミュニティ・スクール推進事業	所管課	こども政策課 生涯学習課
3 事業の概要	学校支援ボランティアなど既存の活動を継承しながら地域学校協働活動を推進し、豊かな人間性と創造力を持ち、地域に愛着や誇りを持つ児童・生徒の育成を図る。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 各学校の実情に応じて、地域住民のボランティアを活用し、生活や学習の支援、環境整備、安全パトロールなどの地域学校協働活動を行い、児童生徒の学校生活の充実を図る。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> コロナ禍において、規模の縮小や感染予防策の実施など実施形態を工夫しながら、引き続き事業を実施する。		
	<b>【数値目標】</b> 地域学校協働活動に参画する地域住民の数（年間延べ人数） 20,000人		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 各学校の実情に応じて、地域住民のボランティアを活用し、生活や学習の支援、環境整備、安全パトロールなどの地域学校協働活動を実施した。また、ボランティア支援員の専門性を生かして、地域学習を進めることができた。 学校運営協議会が設置された学校では、協議会で決定した活動を実施するため地域学校協働活動推進員を通じて地域住民に呼びかけを行った。		
	<b>【成果】</b> 地域学校協働活動を実施することで、様々な地域住民と触れ合い、児童生徒の学校生活の充実を図ることができた。また、地域学習を進めることで、児童生徒自身の暮らす地域のことをより深く知ることに繋がった。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 地域学校協働活動に参画する地域住民の数（年間延べ人数） 19,842人		
6 課題・今後の対応	学校支援ボランティアなど地域学校協働活動の内容をより一層充実させるために、引き続き多様なボランティア人材の掘り起こしが必要である。コミュニティ・スクールが全市的に導入される中、学校支援ボランティア事業を含めた地域学校協働活動を推進することが必要である。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-4 学びあう地域づくりの支援	主な取組	③地域学校協働活動推進員の配置
2 事務事業名	地域学校協働活動推進員配置事業	所管課	生涯学習課
3 事業の概要	学校と地域をつなぎ、地域学校協働活動をコーディネートするため、コミュニティ・スクールを導入した小中学校に地域学校協働活動推進員を配置する。		
4 目標	【目標】 コミュニティ・スクールを導入した学校すべてに地域学校協働活動推進員を配置する。		
	【前年度からの改善方法】 地域学校協働活動推進員という職が新たな職であるため、推進員同士の情報交換を定期的に行う等、相談支援体制や役割に対する研修を実施し、スキルアップを目指す。		
	【数値目標】 コミュニティ・スクール導入校すべて(12校)に推進員を配置し、地域学校協働活動を充実させる。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 学校と地域のつなぎ役として、コミュニティ・スクール導入済みの12校において、週10時間以内で勤務時間する会計年度任用短時間勤務職員の任用を行い、地域学校協働活動推進員として配置をした。 推進員同士の意見交換や困りごとへの支援のため、年間5回程度、推進員を対象にした研修を実施した。		
	【成果】 地域の人材把握が難しい教員に代わり、学校に配置している推進員が学校と地域のつなぎ役を担い、教員の負担軽減を図っている。推進員向けの意見交換や研修を実施し、困っていることに対して支援を行った。		
	【数値目標の実績値】 導入済みの小中学校12校すべてに地域学校協働活動推進員を配置した。 学校支援ボランティア事業を承継しながら、地域と学校が一体となって子どもたちの成長を見守る取り組みを実施した。		
6 課題・今後の対応	コミュニティ・スクール導入に向けた準備を全市的に進め、市内の小中学校へ地域学校協働活動推進員を配置していくため、適任の人材を確保することが課題である。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	4-1	所管課	学校教育課
	項目名	健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成		
	概要	<p>子どもを取り巻く生活環境の急激な変化等の要因により、体力・運動能力の低下、二極化傾向、外的要因による健康被害等、体力向上や健康の保持増進に係る問題が喫緊の課題となっている。また、多様化する現代的課題に対して、子どもの安全・安心に対する懸念が広がっている。さらに、命の重みに対する感受性が弱まっていることが指摘されている。</p> <p>こうしたことから、小・中学校が連携して、子どもの体力・運動能力の向上、健康で安全な生活、自他の命を大切にする態度や実践力の育成に努める。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	体力・運動能力の向上を図る取組の充実		○
	②	健康教育の充実		○
	③	いのちの教育の充実		◎
	④	安全教育の充実		○
取組状況の総括	【成果】			
	<p>遊具の設置や部活動指導員等の配置について、計画どおり実施できた。コロナ禍で制約がある中で、専門機関と連携しながら健康教育・いのちの教育の充実を図ることができた。</p>			
取組状況の総括	【課題・今後の対応】			
	<p>引き続き、体力・運動能力向上を図っていくとともに、コロナ禍による児童生徒の心身の状況を丁寧に把握し、必要な施策を講じていく必要がある。コロナ禍の収束を見据え、児童生徒の体力・運動能力の向上及び心身の開放に資するような施策を模索する。</p> <p>部活動の地域移行に向け、様々な関係機関と連携したり、広く周知したりしつつ、計画的に準備を進めていく必要がある。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	A			
評価理由	各事業における数値目標の達成状況と、内容的な前進を勘案し、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	情報モラルだけではなく、情報リテラシーの問題も時間を取って学習してもらいたい。また、小学生になってからでは遅いとも感じるので、もっと年少の時から、さらには保護者への啓発も含めて検討してもらいたい。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主な取組	①体力・運動能力の向上を 図る取組の充実
2 事務事業名	体力・運動能力向上事業	所管課	学校教育課 こども施設課
3 事業の概要	発達段階に応じた適切な運動を行ったり、運動能力を高めたりするため、指導方法の工夫改善を図り、児童生徒の体力・運動能力の向上に努める。また、運動の楽しさや喜びを実感させることにより、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現に向けた意欲と実践力の育成に努める。		
4 目 標	【目標】 運動する機会を増やしたり、充実させたりすることによって、児童生徒の運動意欲、体力・運動能力の向上に努める。		
	【前年度からの改善方法】 ・令和4年度が遊具設置計画の最終年度となるため、増設を計画通り完了させるとともに、その活用や安全管理について各学校を指導する。 ・中学校の運動部活動において、外部人材を増員することで、より専門的な指導によって、生徒の運動意欲と体力・運動能力の向上を図る。		
	【数値目標】 ・市内6小学校以上の遊具を整備し、はん登棒、雲梯、ブランコを設置する。 ・運動部活動の外部人材の配置数が参考値と同値または上回る。 <参考値>R3部活動指導員…6名 運動部活動外部指導者…9名		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・各小学校の遊具の状況を把握し、修繕、更新、新設を進めた。 ・各中学校の運動部活動の実態を把握し、部活動指導員、運動部活動外部指導者を配置するとともに、県教育委員会と連携し、指導者研修会を実施した。 ・成実小学校及び淀江小学校のグラウンドについて芝生化を行った。		
	【成果】 ・市内6小学校の遊具設置を行った。 ・運動部活動において外部人材の配置を進めたことで、生徒がより専門的な指導を受けることができ、運動意欲等の向上につながった。 ・グラウンドの芝生化によりケガをするリスクが軽減されるとともに、外で遊びたくなるような環境の整備が進んだ。		
	【数値目標の実績値】 ・市内6小学校の鉄棒、はん登棒、雲梯、ブランコの整備が完了した。 ・R4部活動指導員…6名 運動部活動外部指導者…10名		
6 課題・今後の対応	遊具の適切な活用や安全管理について各学校に指導する。 部活動の地域移行に向け、在り方協議会において今後の進め方について検討したり、モデル競技を実施したりするなど、準備を進める。		
7 個別事業評価	○		



## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主な取組	②健康教育の充実
2 事務事業名	健康教育推進事業	所管	学校教育課
3 事業の概要	<p>心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となる喫煙、飲酒、薬物乱用やメディア依存などに関する理解を深めるとともに、健康を害する状況に陥らないようにするための思考力・判断力の育成に努める。</p> <p>人間の誕生の喜びや生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重しようとする態度や実践力の育成に努める。</p>		
4 目標	<p><b>【目標】</b> メディア依存に関する学習をとおして、自他の生命を尊重し、健康に関する知識、思考力、判断力の育成に努める。</p>		
	<p><b>【前年度からの改善方法】</b> 全国的に、メディア依存の傾向が近年増加傾向にある。こうした実態をふまえた健康教育を検討するよう、各学校へ情報提供及び指導を行う。</p>		
	<p><b>【数値目標】</b> ・月曜日から金曜日に、1日1時間以上テレビゲームをする割合が全国平均と同値または下回る。 R3小学校…76.3% 中学校…80.1% ・心の健康問題、薬物乱用防止について複数学年で実施した学校の割合が参考値と同値または上回る。 ＜参考値＞ R3小学校…65.2% 中学校…50.0%</p>		
5 取組状況・成果	<p><b>【取組状況】</b> ・専門機関（警察）と連携を取り、児童生徒の発達段階に応じた学習を行った。 ・各学校の健康相談等であがった課題について、専門機関との連携を含めた実践的で効果的な健康教育に取り組んだ。</p>		
	<p><b>【成果】</b> 専門機関（警察）と連携することで、児童生徒がより専門的に学び、情報モラルに対する意識を高めることができた。また、自他の生命を尊重し、健康に関する知識、思考力、判断力を身に付けることができた。</p>		
	<p><b>【数値目標の実績値】</b> ・月曜日から金曜日に、1日1時間以上テレビゲームをする割合 小学校…75.4% 中学校…69.4% ・心の健康問題、薬物乱用防止について複数学年で実施した学校の割合 小学校…52.1% 中学校…45.4%</p>		
6 課題・今後の対応	<p>・今後も、メディア依存の割合が増加するものと思われる。児童生徒だけでなく、保護者への啓発についても取り組んでいく必要がある。 ・児童生徒が抱える心の健康問題に引き続き留意しつつ、その課題の解決に向けて、各学校へ情報提供及び指導を行っていく必要がある。</p>		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主な取組	③いのちの教育の充実
2 事務事業名	自他の命を大切に する子どもの育成事業	所管	学校教育課
3 事業の概要	児童生徒が生命の誕生や生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重しようとする態度や実践力を育む取組を全教科・全領域において実践する。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 専門機関と連携しながら、児童生徒が自他の生命を尊重しようとする態度や実践力を育むための教育の充実を図る。児童生徒が自主的・自発的にいじめのない安心・安全な楽しい学校づくりに取り組む。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> ・新型コロナウイルスの感染拡大状況においても、リモート等によって外部機関との連携を図ることができるようにする。 ・いじめのない安心・安全な楽しい学校にするために、校区で取組方法を工夫する。		
	<b>【数値目標】</b> ・いのちの教育を専門機関と連携して行う学校の割合が、参考値と同値または上回る。＜参考値＞ R3…44% ・安心、安全な学校づくりの推進を図る学校の割合が、参考値と同値。 ＜参考値＞ R3…100%		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> ・発達段階に応じて、身体や命の大切さについて学習した。また、小学4年生以上の学年では、外部講師から命の誕生について専門的な話を聞く機会を設けた学校もあった。 ・児童生徒がいじめのない安心・安全な楽しい学校にするために、各中学校区で自治の取組の充実を図った。		
	<b>【成果】</b> ・外部講師から命の大切さについて教わることで、自他の命の尊さを学ぶことができた。 ・安心・安全な楽しい学校づくりの実現に向けて、各中学校区で小中サミットの代替として小中交流会を実施した。各校区で話し合われたことを米子市内の学校で共有したことで、自治の取組の充実につながった。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> ・いのちの教育を専門機関と連携して行った学校の割合…76.4% ・安心、安全な学校づくりの推進を図った学校の割合…100%		
6 課題・今後の対応	・専門機関と連携したいのちの教育の更なる充実を図る。 ・いじめのない安心・安全な楽しい学校づくりに向けて、アフターコロナをふまえ、市内各校が参集する小中サミットを開催し、各校区のよい実践を市内で共有していきたい。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主な取組	④防災・安全教育の充実
2 事務事業名	安全・防災教育実施推進事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	児童生徒が危険から身を守るために、それぞれの要因の理解や予測する力、状況に応じた適切な対応等の実践力の育成に努める。また、災害への備えや、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動することなど、災害から身を守る態度や実践力の育成に努める。		
4 目標	【目標】 安全及び防犯関連の学習において、専門機関と連携しながら児童生徒への指導の充実を図る。具体的な場面を想定した防災教育を通して、児童生徒が災害から身を守る態度や実践力を育む。		
	【前年度からの改善方法】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外部機関と連携した防犯教室等の実施が困難になることが予想されるため、リモートや校内放送を活用するなど、指導の工夫・充実を図る。 ・避難訓練について、緊急地震速報やJアラートを活用するなど、具体的な場面を想定して行う好事例を市内各校に広げる。		
	【数値目標】 ・専門機関と連携した防犯教室実施校が参考値と同値または上回る。 ＜参考値＞ R3小学校…61% 中学校…82%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中であったが、警察職員を外部講師として招聘しての防犯教室を実施することができた。 ・避難訓練においては、火災・地震・津波・土砂災害・不審者侵入等の様々なケースを想定して実施した。参観日等を利用して、保護者を対象とした避難訓練を実施した学校もあった。		
	【成果】 ・専門機関から情報モラルや交通安全に関する話を直接聞くことで、非行防止への意識向上や交通マナーへの理解を深めることができた。 ・避難訓練においては、具体的な場面を想定した訓練を行ったことで、児童生徒が自らの身を守るための判断力を身につけることができた。		
	【数値目標の実績値】 ・専門機関と連携した防犯教室実施校 小学校…65.2% 中学校…72.7%		
6 課題・今後の対応	新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ、これまで控えていた外部機関と連携した防犯教室等の再び積極的に実施していく。 避難訓練においては、引き続き好事例を市内各校に紹介しながら横展開を図っていく。		
7 個別事業評価	○		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	4-2	所管課	学校給食課
	項目名	学校における食育の推進		
	概要	<p>栄養教諭、学校栄養職員の給食時間や授業などでの食に関する指導により、給食の残量は減ってきてはいるが、児童生徒の食生活の変容に十分には至っていない。</p> <p>そのため、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、栄養教諭、学校栄養職員が学級担任等と連携して、各教科や給食時間において学校給食を「生きた教材」として有効活用した実践的な指導を行うなど、継続的に食育の推進に努める。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	②	給食の時間における食に関する指導の実施		◎
	①	各教科等における食に関する指導の実施		◎
	③	食育に関する保護者への啓発と広報		○※
取組状況の総括	<p><b>【成果】</b></p> <p>栄養教諭等が給食時間に学校訪問し食育指導を行ったことで、「いきいきこめっこデー」の認知度が高まるとともに、給食に関心を持つ児童生徒が増え、食材への理解も深まった。</p> <p>栄養教諭等が同じ中学校区の小中学校を担当することで小中学校の連携が深まり、指導に一貫性を持たせることができた。</p> <p>米子市の取組がマスメディアで取り上げられる回数や、給食レシピの問合せが増えるなど、保護者や地域の給食に関する関心がさらに高まった。</p>			
	<p><b>【課題・今後の対応】</b></p> <p>引き続き、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、栄養教諭、学校栄養職員が学級担任等と連携して、各教科や給食時間において学校給食を「生きた教材」として有効活用した実践的な指導を行うなど、継続的に食育の推進に努めていく必要がある。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	S ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	<p>主な取組の各事務事業における数値目標の達成状況と新型コロナウイルス感染症の影響を勘案し、この評価とした。</p> <p>給食試食会での講演が、新型コロナウイルス感染症の影響により2回しか実施できなかったが、給食だよりや食育に関する資料などを家庭配布することで、保護者啓発の充実を図った。</p>			
教育委員の 意見・指摘	給食の残食量の傾向を新たな数値目標として取り入れるなどして、更なる施策の充実を目指してほしい。			

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-2 学校における食育の推進	主な取組	①各教科等における食に関する指導の実施
2 事務事業名	各教科等における食に関する指導の実施	所管課	学校給食課
3 事業の概要	各教科等を通じて学級担任等と連携した食に関する指導を実施する。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 栄養教諭等によるT・T授業（ティーム・ティーチング授業）への参画を進め、児童生徒の自己管理能力の育成を目指すとともに、教職員の食育、給食への理解を高める。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 効果的な指導方法について研究していくことで、教職員の食育、給食への理解をより一層、高める。 小学校教育研究会等で教職員対象の食に関する講演会を開催し、食育についての啓発を行い、毎日の学校給食での指導に活かせる取組を行う。 栄養教諭等に兼務辞令を発令して、全ての小中学校の所属としたことを活かし、小中連携を高め、さらなる食育推進体制の整備を図っていく。		
	<b>【数値目標】</b> T・T授業参画回数 年 150回以上 うち家庭科以外の回数 50回以上		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 栄養教諭等が栄養士としての専門性を活かし、学級担任等と連携して、学校給食を通して食に関する指導を行った。 参観日に授業を行うなど、保護者にも学校給食を通じて健康や食の大切さについて考える取組を行った。		
	<b>【成果】</b> 栄養教諭等の専門性が認知され、T・T授業の回数は目標以上となった。また、小中学校間の連携が深まり、中学校区間の学校で系統性・継続的指導を実施することができた。 小学校教育研究会と連携が深まり、教職員と食に関する指導についての研究をすることができるなど、教職員が食育、給食への理解を高めることにつながった。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> T・T授業参画回数 年 252回 うち家庭科以外の回数 45回		
6 課題・今後の対応	学級活動や保健体育など、家庭科以外でのT・T授業への参画も増やしていくためにも、栄養士としての専門性を高める研修を行う。 教職員の食育への理解を深める取組を進めていくために、栄養教諭等の資質向上や、効果的な指導方法、食に関するカリキュラムマネジメントを進めていく必要がある。小中連携だけでなく、保小連携も進めていく。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-2 学校における食育の推進	主な取組	②給食の時間における食に関する指導の実施
2 事務事業名	給食の時間における食に関する指導の実施	所管課	学校給食課
3 事業の概要	給食時間に「生きた教材」である学校給食を有効に活用した実践的な指導を実施する。		
4 目 標	<b>【目標】</b> 栄養教諭等が、給食時間における食に関する指導を行う。 給食を通して、食べる楽しさや学ぶ楽しさを知ることによって、いきいきとした豊かな心や郷土愛を育むことを目的として取り組んでいる「いきいきこめっこプロジェクト」のさらなる展開を図っていく。		
	<b>【前年度からの改善方法】</b> 引き続き、より効果的な指導方法などについて研究していくとともに、教職員の食育への理解を深めるため、「いきいきこめっこデー」などについての啓発方法を見直していく必要がある。		
	<b>【数値目標】</b> 小学校 各学級 年3回(903回)以上 中学校 各学級 年2回(266回)以上		
5 取組状況・成果	<b>【取組状況】</b> 昨年度見直しを行った「給食時間における食に関する指導計画」や指導方法を基に、栄養教諭等が指導を展開した。また、指導内容をまとめた掲示資料を市内統一で作成し指導後に配布することで、給食時間の指導の効果的な活用を図った。 中学校区に同じ栄養教諭等が指導を行うことで、小中学校間の連携を深めるとともに、小中9年間を見通した系統・継続的な指導を展開した。 他課や関係団体と連携して、給食を教材とした食育の推進プロジェクトを展開した。		
	<b>【成果】</b> 栄養教諭等が給食時間に学校訪問し食育指導を行ったことで、給食に関心を持つ児童生徒が増え、「いきいきこめっこデー」の認知度も高まった。 市内共通仕様の指導教材や資料配布を実施することで給食時間の指導の平準化を図ることができた。栄養教諭等が同じ中学校区の小中学校を担当することで小中学校の連携が深まるだけでなく、校区の実態に沿った指導を展開でき、また、指導に一貫性を持たせることができた。		
	<b>【数値目標の実績値】</b> 小学校 各学級年平均 3.1回(954回/301学級) 中学校 各学級年平均 3.8回(511回/133学級)		
6 課題・今後の対応	栄養教諭等により効果的な指導方法などの教材研究と、食に関する指導のカリキュラムマネジメントを深めていく必要がある。		
7 個別事業評価	◎		

## 令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-2 学校における食育の推進	主な取組	③食育に関する保護者への啓発と広報
2 事務事業名	食育に関する保護者への啓発と広報	所管課	学校給食課
3 事業の概要	給食だよりなどの家庭配布や給食試食会などにおける講演により、児童生徒の食生活の状況や望ましい食生活のあり方などについて、保護者への啓発を行う。 また、学校給食献立レシピの市報、ホームページへの掲載や学校給食を活用した取組をマスメディアなどで効果的に情報発信を行う。		
4 目標	【目標】 栄養教諭等による保護者への講演、家庭配布物などによる保護者啓発を実施し、保護者の食育、給食への理解を高める。		
	【前年度からの改善方法】 給食試食会で講演を行うとともに、広報よなごや給食だより等で食育に関する記事を掲載したり、米子市のホームページ等で給食献立のレシピの紹介を行い、保護者に対する啓発や広報を行う。 ICTを活用した新しい連携方法を研究する等、家庭との連携を新たに研究し、密にしていくことで、食育、給食への理解を高める。		
	【数値目標】 講演 年10回以上 ※コロナ禍での代替目標 給食だより号外発行回数 前年度以上 令和3年度 給食だより号外発行回数 5回		
5 取組状況・成果	【取組状況】 保護者に対する啓発や広報を次のとおり行った。 ・アスリート交流事業など学校給食を活用した取組をマスメディアで発信 ・広報よなごや給食だより等で食育に関する記事を掲載 ・米子市のホームページ等で給食献立のレシピを紹介 ・学校ホームページや学級だよりなどで給食献立など食育の取組を紹介		
	【成果】 米子市の取組がマスメディアで取り上げられる回数や、給食レシピの問合せが増えるなど、保護者や地域の給食に関する関心がさらに高まった。		
	【数値目標の実績値】 講演 年 2回 新型コロナウイルス感染症の影響により給食試食会での講演会が2回しか実施できなかったが、給食だよりや食育に関する資料などを家庭配布することで、保護者啓発を行った。 ※ 令和4年度 給食だより号外発行回数 6回		
6 課題・今後の対応	様々に工夫していろいろな方法で保護者への啓発は行っているが、コロナ禍での新たな啓発方法について、第二学校給食センターを活用した新たな取組の企画を検討するなど、さらに検討する必要がある。 併せて、学校・地域と連携をさらに深め、様々な広報媒体を活用して家庭への情報発信を一層進める必要がある。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

## 1.1 学識経験者の知見

点検・評価の客観性を高めるため、教育に関し学識経験を有する方の知見を活用することとし、令和5年8月8日に次の方々から点検・評価に関する意見聴取を行いました。

小谷 幸久 氏（社会教育委員、米子市文化協議会会長）

高橋 喜美子 氏（就將公民館運営審議会委員、元小・中学校PTA会長）

西垣 滋 氏（元米子市立小学校長）

学識経験者による主なご意見・指摘については、次のとおりです。

全体を通したものとして、数値目標を達成した事業については、次年度以降、目標設定を見直し、米子市教育振興基本計画の目標が達成できるように取り組んでほしいという指摘がありました。

番 号	学識経験者の意見・指摘
基本施策	
1-1	<p>学校教育においては、数値目標がそぐわない側面もあるので、全国平均値も含め多面的な数値で事業を評価することが大切であると思う。</p> <p>人権教育推進事業においては、全ての小学校で同和問題学習資料集に掲載されている教材を活用することができたので、今後は、その教材がさらに有効活用できるような取組を進めていってほしい。</p>
豊かな心と創造性をもった子どもの育成	
1-2	<p>学校施設の改修、整備については、引き続き学校現場の要望をよく聞いて事業を行ってほしい。</p>
安全で安心な学校施設の改善	
1-4	<p>今後、大量のタブレット端末の更新が予想されるので、十分に検討しておくこと。</p>
学校ICT環境の整備	
1-6	<p>図書が子どもの心を育てたり、学習に使われている。引き続き古い本を新しい本に入れ替えながら蔵書冊数を確保し、手を抜くことなく、学校図書館の充実を推し進めていただきたい。</p>
学校図書館の充実	



番 号	学識経験者の意見・指摘
基本施策	
2-1 ----- 確かな学力を身につけた子どもの育成	<p>情報教育普及事業において、多額の費用を投じてタブレット端末を設置したことが無駄にならないように、しっかり活用してほしい。実際の授業で使えるように、その頻度をどう上げるかというのは、学校教育の大きなポイントのような気がする。</p> <p>米子市小学校オープンスクールにおいては、参加できなかった保護者への情報提供の方法を検討してほしい。</p>
2-3 ----- 子ども読書活動の推進	<p>おはなし会の開催やブックスタート支援事業は、保護者が子育てしやすい環境につながり、良い取組ができています。</p>
2-6 ----- 生活に役立つ図書館の充実	<p>「ヤング・アダルトコーナー」など、いろいろな分野に沿った本の置き方がされており、利用者が本を選びやすく、とても良いと感じる。</p>
3-3 ----- 歴史的文化遺産の保存と活用	<p>埋蔵文化財活用事業において、「植生マップ」の作成や、現地ウォークなどの、いろいろな楽しみ方を提案しているのは良い取組である。マスコミの力はすごいので、そこも利用して、情報発信をしていったら良いと思う。</p>
4-2 ----- 学校における食育の推進	<p>「給食だより」の内容が分かりやすく、とても良いが、外国籍の方も理解できるようにルビがあると、さらに良いと思う。</p> <p>学校給食で支えられている子どもがいるなか、しっかりアレルギー対応もしているのは大事なことである。</p>

## 米子市教育振興基本計画体系図

基本目標	目指す市民の姿	基本施策	主な取組
<p><b>1 心を育む学びのあるまち</b></p> <p>心の豊かさを持つとともに生きがいがある豊かな人生を送ることができるよう、人と人との関わり合いの中で、互いに認め合いながら心の交流を図ることのできる学びの機会の提供に努めます。</p>	<p>○互いの違いを認め合いながら、自他の命の大切さを意識し他人を思いやる心と態度が備わっています。</p> <p>○自ら率先してあいさつを交わし、社会のきまりやモラルが守れるまちづくりを目指しています。</p> <p>あいさつ、感謝など自分の気持ちの表現ができるとともに、課題解決のための行動がとれます。</p>	<p>1-1 豊かな心と創造性をもった子どもの育成 学校教育課</p> <p>1-2 安全で安心な学校施設の改善 こども施設課</p> <p>1-3 環境に配慮した学校教育環境整備の推進 こども施設課</p> <p>1-4 学校ICT環境の整備 こども施設課 学校教育課</p> <p>1-5 通学路の安全確保 こども支援課</p> <p>1-6 学校図書館の充実 こども施設課 学校教育課</p>	<p>①心の教育の充実 ②人権教育の充実 ③生徒指導の充実 ④ふるさと・キャリア教育の充実</p> <p>①学校施設大規模改修・非構造部材の耐震化 ②学校施設整備(改修)事業</p> <p>①学校施設維持管理事業 ②学校施設のバリアフリー化事業</p> <p>①ICT機器整備事業</p> <p>①危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実</p> <p>①学校図書館運営事業</p>
<p><b>2 学ぶ楽しさのあるまち</b></p> <p>学んだことをいかしながら創造力と実践力が育まれるよう、どの世代においても様々な体験を通して発見や豊かな学びが獲得できる場の提供に努めます。</p>	<p>○学ぶ楽しさを知り、自ら進んで学ぼうとする姿勢があります。</p> <p>○生涯を通して学ぶ楽しさを身につけ、学んだことを生活や行動、まちづくりにいかします。</p>	<p>2-1 確かな学力を身につけた子どもの育成 学校教育課 こども政策課 こども支援課 こども相談課</p> <p>2-2 子ども地域活動の支援 地域振興課</p> <p>2-3 子ども読書活動の推進 生涯学習課 市立図書館</p> <p>2-4 公民館運営の充実 地域振興課</p> <p>2-5 公民館の整備 地域振興課</p> <p>2-6 生活に役立つ図書の充実 生涯学習課 市立図書館</p>	<p>①学力の向上を図る学びの充実 ②特別支援教育・インクルーシブ教育の推進 ③切れ目ない支援体制の推進 ④外国語・英語教育の充実 ⑤情報教育とICT活用による授業の充実</p> <p>①子ども地域活動の支援</p> <p>①乳幼児期から本に親しむ機会の創出 ②子ども読書活動推進事業の実施</p> <p>①広報活動 ②社会教育講座 ③体育・文化事業 ④ひとづくり・まちづくり推進事業</p> <p>①公民館施設等整備事業 ②明道公民館整備事業</p> <p>①生活充実図書整備事業</p>

## 米子市教育振興基本計画体系図

基本目標	目指す市民の姿	基本施策	主な取組
<p><b>3 郷土で育む学びのあるまち</b></p> <p>米子の財産である豊かな自然や歴史・文化遺産を保護・保存・継承・活用していくとともに、その魅力と価値を発信しながら、市民が郷土に誇りを持てる学びの創造に努めます。</p>	<p>○米子の地理や歴史を学びながら、米子の自然や伝統・文化を理解しています。</p> <p>○郷土である米子を愛し、誇りを持ってまちづくりを進めています。</p>	<p>3-1 学校給食における地産地消の推進 学校給食課</p> <p>3-2 生涯学習活動の推進 生涯学習課</p> <p>3-3 歴史的文化遺産の保存と活用 文化振興課</p> <p>3-4 学びあう地域づくりの支援 学校教育課 こども政策課 生涯学習課</p>	<p>①学校給食用食材の県産品利用の推進と充実 ②生産者と児童生徒の交流の実施 ③児童生徒から募集した地元食材を使用した献立の実施 ④郷土料理等の積極的な導入と継承</p> <p>①米子人生大学の開催 ②よなごアカデミーの開催 ③二十歳を祝う会の開催</p> <p>①文化財保存活用地域計画の策定 ②文化財の保存整備の推進 ③文化財の活用の展開</p> <p>①地域とともにある学校づくり ②地域学校協働活動の推進 ③地域学校協働活動推進員の配置</p>
<p><b>4 健康で安心して学べるまち</b></p> <p>生涯にわたり健康で明るく活力ある生活を送ることができるよう、健康に関する情報発信や啓発を行いながら、誰もが目的や年齢等に応じたスポーツに親しむことができる場の提供と全ての施設で安心して学べる環境整備に努めます。</p>	<p>○食生活の大切さを理解して健康的な体づくりを目指しています。</p> <p>○規則正しい生活と適切な食生活を送り、健康な体づくりに努めています。</p>	<p>4-1 健康でたくましく、命を大切に育てる子どもの育成 学校教育課</p> <p>4-2 学校における食育の推進 学校給食課</p>	<p>①体力・運動能力の向上を図る取組の充実 ②健康教育の充実 ③いのちの教育の充実 ④防災・安全教育の充実</p> <p>①各教科等における食に関する指導の実施 ②給食の時間における食に関する指導の実施 ③食育に関する保護者への啓発と広報</p>